

科目名	英語（初等）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	東田 彰子				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業の到達目標及びテーマ 2020年度より英語が小学校5, 6年生で教科化された。そして3年生から英語活動が始まった。 小学校教員として児童に英語を教えるために必要な言語習得についての理論や授業実践に必要な英語力や英語音声についての知識を養う。また発音とスペルの関係を理論と実践の両方から理解する。さらに小学校での教科として英語の授業ができる英語力と指導力を習得する。
授業概要
【対面授業】 外国語習得に關しての基本的な知識を得て理解する。英語の4技能である「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」「読むこと」「書くこと」を指導するために必要な知識や指導方法を学ぶ。 また言語の仕組みへの気づきを指導するための具体的な英語運用能力を高める学習をする。フォニックスや絵本のリーディングを通し教材を開発する方法を学び4技能複合型の活動を行い、その育成をはかる。 最終的には題材を選び、模擬授業を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業はアクティブラーニング、授業参加型で行います。それぞれの活動に興味を持って取り組んでください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
小学校英語教育レポート	25
指導案提出	25
実習授業への参加状況	25
授業を受けてのまとめのレポート	25

教科書			
教科書 1	「英語」教科書5, 6年生用		
出版社名	三省堂版	著者名	
教科書 2	小学校学習指導要領（英語）		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 3	Let's Try 1,2		
出版社名	文部科学省	著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	参考書・参考資料等 小学校外国語活動の進め方		
出版社名	成美社	著者名	岡秀夫・金森強
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
対面授業で行う予定ですが、コロナの影響でzoom授業に切り替えることがあるかもしれません。
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 ガイダンス：授業の進め方を説明する。小学校英語教育導入の経緯と現状の把握をする。
2	【対面】 第二言語習得理論の基礎を学ぶ。またさまざまな外国語指導法を知る。
3	【対面】 発表：「自己紹介スピーチ」に使う提示物を作成する。 それを使って英語で自己紹介スピーチをする。グループで相互評価をする。
4	【対面】 小学校英語における4技能指導方法を知る単元： その技能を伸ばすために使える教材を知り、実際に活用してみる。
5	【対面】 スモールトークの練習及び発表の単元： 実際に小学校で授業をするときの導入方法としての「スモールトーク」を考える。グループで発表しあう。
6	【対面】 フォニックスについて知る単元： フォニックスとはどんなものかを実際に知り、体験する。授業に生かす方法を学び、グループでその単元の構想をねる。
7	【対面】 絵本を使った指導方法を学ぶ単元： 英語の絵本や日本の民話や昔話の英語版から選び、読み聞かせの練習をする。 その後グループで発表しあい、相互評価する。
8	【対面】 国際理解をねらいとした単元：日本と外国の文化や伝統の違いを学び、パワーポイントなどを使って、その違いに特化した教材作りを試みる。
9	【対面】 ICT活用の単元：楽しいゲームやクイズをICT機器を使って作成してみる。 その後グループで発表しあい、相互評価する。
10	【対面】 コミュニケーション能力育成のための単元： ペアワークやグループワークをしながらコミュニケーション活動の方法を学ぶ。
11	【対面】 チームティーチングについて学ぶ単元： DVDを見て実際のチームティーチングの様子を知る。同時に授業の流れを記録する方法を学ぶ。 またチームティーチングの方法や教材などについて研究する。
12	【対面】 教材研究の単元： 実際に教育現場で使われる、英語の教科書や"Let's Try"の教材を知る。 それぞれの年間指導計画や実際どのように使われるかなど研究する。
13	【対面】 授業課程と学習指導案の単元： これまでの学習の中から題材を選び、グループで学習指導案を作る。模擬授業を進めるための準備をする。
14	【対面】 発表： 各グループで実際に模擬授業を行う。その後相互評価をかねてグループで討議する。
15	【対面】 小学校英語教育のまとめと振り返り： グループで全講義を省みて振り返りのディスカッションを行う。その後レポートを作成し提出する。

科目名	英語科指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	東田 彰子				
クラス名					

授業目的と到達目標
小学校外国活動の基本理念を理解して、小学校で外国語を教える時に必要な、英語・外国語学習理論・指導法に関する知識を身につける。 小学校英語指導の目標にそって、どのような内容を、どのような指導法や教材を使い進めるかを理解する。それに基づいて模擬授業を経験する。その中で英語の授業を展開できる指導技術を身につけることを目標とする。 また英語で授業することに自信を持ち、さまざまな英語活動を行えるようになることを目指す。
授業概要
【対面授業】 前半は関連法規や理論に関する講義を行う。その後ビデオによる授業観察や授業案作成の技術を演習する。実際に児童の立場や指導者の立場に立って模擬授業を行ったりする。そのことを通して小学校における英語活動のねらいを理解するとともに、その指導法を身につける。 模擬授業ではグループでの作業や発表、ディスカッションなどを多く取り入れていく。 自身の中学校・高等学校での英語教員の経験を生かし実践的に指導する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
講義とともに参加型の授業を展開します。授業中の発表やグループワークの実習には積極的に参加してください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品提出	25
レポート提出	25
スモールトーク・スピーチ発表	25
模擬授業に取り組む姿勢や態度	25

教科書			
教科書 1	Let's Try! 1, 2		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2	英語教科書 5, 6 年用		
出版社名	三省堂版	著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	小学校外国語活動の進め方		
出版社名	成美社	著者名	岡秀夫・金森強
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
対面授業をする予定ですが、コロナの影響でzoom授業へ切り替えることがあるかもしれません。
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 ガイダンス：授業の進め方、テキスト参考文献について、成績評価などの説明 小学校での英語教育の意義と目ざすもの①： 文部科学省の小学校学習指導要領、関連諸法規、教育行政から学ぶ
2	【対面】 学校英語教育の意義と目ざすもの②：公立小学校で行われている英語教育のカリキュラムや教材などを参考にしながら実際に小学校で行われている学習について学ぶ
3	【対面】 小学校における英語教育の実践： 英語教育の研究授業の録画ビデオなどを見ながら、授業メモをとる演習をする。 またどのような授業展開をするのが良いかグループでディスカッションする。
4	【対面】 小学校における英語教育についてレポートを作成して提出する（成績評価の対象となります） 英語授業で使用される各教材を実際に用い、語彙や表現について研究する
5	【対面】 クラスルームEnglishの活用 スモールトークについて学ぶ 楽しいゲームの紹介と運用の演習： 実際にゲームと使った授業の展開を考え、模擬授業の準備をする
6	【対面】 日本と外国の文化や伝統のちがいについて学ぶ 外国の祝日や楽しい行事などを知り、授業に活用する方法を考える： ハロウィーンやクリスマスにちなんだゲーム作りの模擬授業の準備をする
7	【対面】 模擬授業①とその後のグループディスカッション
8	【対面】 スモールトークの実践とスピーチ発表の演習：自己紹介カードの作成
9	【対面】 発表：自己紹介カードを使って、自己紹介の後、スモールトークを行い、相互評価を行う
10	【対面】 指導案作成について研究する 模擬授業の準備：教材を決定し模擬授業の準備をする
11	【対面】 模擬授業②：発表及び相互評価をする（前半グループ）
12	【対面】 模擬授業②：発表及び相互評価をする（後半グループ）
13	【対面】 ALTや地域人材の先生との授業について研究する 簡単な指導案を作成する
14	【対面】 小学校における英語教育の考察： コミュニケーション能力向上のため学んだことをどう生かすかグループディスカッションする 小学校と中学校の英語教育の連携について学ぶ
15	【対面】 小学校英語教育指導法のまとめと振り返り： グループで全講義を省みて振り返りのディスカッションを行う。 その後レポートを作成し提出する。

科目名	音楽 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	奥原 光				
クラス名					

授業目的と到達目標
音楽の再現と伝承に必要な「楽譜」（五線譜）を読み取る基礎知識を身につける。また、音楽は実際に鳴り響いてこそ音楽と認知されるが、その音をどのように書き記し伝えるかは、読譜力によるところが大きいので、楽譜に対する知識を深めるとともに正しく認識することを目的とする。
授業概要
対面授業 楽譜上の約束事を「楽典」というが、五線、譜表、拍子、調整、速度標識。発想標語などを中心とした楽典に対する知識を深める授業を行う。音楽は鳴り響いてこそ音楽になり得るので、声、楽器などを使って実際に音を出すことも大切であり、授業の中で適宜行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
今まで楽譜を使って音楽をしてこなかった人は、楽譜を知る最後の機会だと思った学んでください。日頃、音楽になじんでいてわかっていると思っ ていても、音楽は奥深いものなので、さらに深めるつもりで取り組んでく ださい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出物、レポート	50
授業への取り組み	50

教科書			
教科書 1	改訂「音楽通論」		
出版社名	教育芸術社	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業のなかで適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
打楽器奏者。附属幼稚園の音楽指導。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション（授業の進め方などの説明） 民族音楽の紹介：世界のいろいろな民族の音楽を紹介（DVD）。人間と音楽がどのように関わっているかを知る。
2	民族音楽の紹介：世界のいろいろな民族の音楽を紹介（DVD）。人間と音楽がどのように関わっているかを知る。
3	民族音楽の紹介：世界のいろいろな民族の音楽を紹介（DVD）。人間と音楽がどのように関わっているかを知る。
4	ヨーロッパで伝承されてきた音楽「クラシック音楽」と「ポピュラー音楽」についての考察。
5	音楽史：クラシック音楽の歴史。（ロマン派音楽まで）。 教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。
6	音楽史：クラシック音楽の歴史。（ロマン派音楽以後）。 教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。
7	音楽の素材のひとつである「音」の物理的考察。音を実感する簡単な実験など。 教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。
8	教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。
9	教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。
10	教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。
11	教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。
12	教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。 （器楽）ボディパーカッションなどでの体験。
13	教科書「音楽通論」にしたがって解説を加えながら楽典問題を解く。 （声）声を使ったリズムアンサンブルの体験。
14	楽典の知識をふまえた上で、楽曲のスコアを見ながら音楽を鑑賞し、その感想文を作成する。
15	今後の楽典の勉強の仕方及び補足。

科目名	音楽Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	大谷 恵世				
クラス名					

授業目的と到達目標
西洋音楽の理論の習得を通して読譜力及び応用力を確実なものにする。また、我が国の伝統音楽の学びも充実させ、それらの知識を教育現場で活用するための応用力、実践力を身につける。
授業概要
【対面・遠隔】 音楽を理解し実践するために音楽を構成している諸要素とその理論を学ぶ。知識として学ぶだけではなく教育現場の実践に役立つ理論と技術の習得をめざし、教育現場で活用できる作品を各個人で制作する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業内容は毎回記録に残す。 リコーダーは常に携帯する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1	最新 初等科音楽教育法 改訂版		
出版社名	音楽の友社	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

小学校教員として勤務
小学校、中学校教員に音楽指導（実技指導）行う
研究会ならびに音楽会においての指導助言、指導講評を行う

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	日本音楽の理解と創作
3	日本音楽(紙芝居) 創作
4	日本音楽（紙芝居）創作
5	日本音階による曲づくり
6	日本音階、西洋音階による曲づくり
7	身の回りのものを使って手作り楽器製作
8	身の回りのものを使って手作り楽器製作
9	挿入歌の作曲
1 0	挿入歌の作曲
1 1	挿入歌の作曲
1 2	挿入歌の作曲
1 3	課題発表
1 4	課題発表
1 5	まとめ

科目名	音楽科指導法Ⅰ（初等）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	大谷 恵世				
クラス名					

授業目的と到達目標
音楽の「楽しさ」から「表現する喜び」への実践的指導法の研究。 小学校の音楽科の授業について理解することを目的とする。各領域における基礎的基本的な内容、指導法を習熟するとともに授業を実践するための知識・技能を身につけ、教材研究に基づき指導案の作成ができることを目標にする。
授業概要
【対面】 小学校指導要領音楽偏「表現」「鑑賞」の領域について教材とその指導法を研究する。様々な実践を通して小学校の教師としての自覚、意欲を高める。また、音楽を通して子ども達の豊かな人間形成を導くことができる指導者の育成を目標にする。本講義では全学年を通して様々な体験を「楽しさ」を通して「表現する喜び」への授業展開ができるよう知識・技能の向上を目指す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・グループワークや相互批評は毎時間実施するため遅刻、欠席はしないこと。 ・教材研究、模擬授業などの課題を出すので、書籍、インターネットを活用できるようにすること。 ・授業内容を毎時間記録することで研究のまとめにすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1	最新 初等科音楽教育法 改訂版		
出版社名	音楽の友社	著者名	
教科書 2	文部科学省 「小学校学習指導要領解説」「音楽偏」		
出版社名	教育芸術社	著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	音楽のおくりもの 2年・4年・6年		
出版社名	教育出版	著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
小学校教員として勤務 小学校、中学校教員に音楽指導（実技指導）行う 研究会ならびに音楽会においての指導助言、指導講評を行う

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 音楽科の役割・要点と課題
2	音楽科の目標と理念 各学年の目標と理念 授業づくりのポイント「共通事項」の指導のあり方
3	歌唱指導の意義と留意点 歌唱教材の研究（「共通事項」の取り扱い方含む）
4	器楽指導の意義と留意点 楽器奏法と指導法の工夫（「共通事項」の取り扱い方含む）
5	鑑賞指導の意義と留意点 日本伝統音楽の教材かと授業づくり（「共通事項」の取り扱い方含む）
6	ピアノ実技 （共通教材の弾き歌い）
7	創作活動の意義と留意点 「音楽づくり」の授業研究（「共通事項」の取り扱い方含む）
8	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 学習指導案作成（低学年）
9	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 学習指導案作成（中学年）
10	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 学習指導案作成（高学年）
11	模擬授業と相互活動 領域「表現」
12	模擬授業と相互活動 領域「表現」
13	模擬授業と相互活動 領域「表現」
14	模擬授業と相互活動 領域「鑑賞」
15	まとめ

科目名	音楽科指導法Ⅱ（初等）	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	奥原 光				
クラス名					

授業目的と到達目標
小学校は在籍年齢幅が広く、教師には各学年（年齢）の精神的・肉体的特性を知るとともに、児童個々の特徴も把握することが求められる。「学習指導要領」で示されている目標・内容・計画・評価について理解し、模擬授業などを通して基本的な音楽科指導を身につけることを目的とする。
授業概要
対面授業 音楽は自ら音を発して表現する「歌唱・器楽」と、音楽を聴き感じる「鑑賞」によって成立している。また、音楽教育が現在に至るまでの歴史や理論を知ること重要である。指導案の作成や模擬授業を通して、音楽科の授業の考え方や実践方法を研究する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
模擬授業を行えるように準備するとともに、他の学生が行っている模擬授業に積極的に参加し協力すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
指導案・レポートなどの提出物	50%
模擬授業への取り組み姿勢	50%

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領「音楽編」		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業のなかで適宜指示をする。資料は配布。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション（資料配布・授業の進め方）など。
2	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の概念』『音楽教育総説』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
3	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の種類』『ギリシアの哲人』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
4	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の研究分野』『グレゴリオ聖歌とグイード』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
5	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の原理』『ペスタロッツとヘルバルト』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
6	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の哲学的基礎』『ふたりのメイソン』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
7	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の美学的基礎』『音楽取調掛』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
8	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の心理学的基礎』『伊沢修二と高津専三郎』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
9	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の社会学的基礎』『音楽教育の理念』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
10	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の価値と機能』『小学唱歌&幼稚園唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
11	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『現代の音楽教育の課題』『コナ抜き音階』を配布し、解説を加える。 模擬授業（輪番）：授業計画を立案し模擬授業を行う。それに対する反省点や感想を指導計画案とともに提出する。
12	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の存在理由』『文部省唱歌』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえて指導案を作成する。（1 & 2年生）
13	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する（3 & 4年生）
14	小学校学習指導要領『音楽編』を学生が輪読し、それに解説を加える。 資料『音楽教育の方向』『童謡』を配布し、解説を加える。 模擬授業を体験したことを踏まえ指導案を作成する（5 & 6年生）
15	資料『学習指導要領の成立と歴史』を配布し、解説を加える。 全体総括と補足。第2回～14回の振り返り。

科目名	家庭	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	横山 和子				
クラス名					

授業目的と到達目標
「家庭」について以下の目標を達成することができる 1.学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容を理解している。 2.家族・家庭生活における学習内容がわかり重要性を理解している。 3.衣食住に関する学習内容がわかり重要性を理解している。 4.消費生活・環境に関する学習内容がわかり重要性を理解している。 5.他教科との関連や食育、E S Dについて理解している。
授業概要
1.対面授業で行う 2. 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容について解説し、目標や内容区分の変遷や特徴を理解させる。 3. 内容を題材レベルで捉え、その題材の学習内容を実践することを通して理解させる。 4. 家庭科に関連して、他教科との連携や食育、持続可能な社会を目指す教育等について理解させる
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
○ 計画に従って、テキストを参考に、予習しておく ○ 受講中は主体的に参加し、グループ活動や討論場面では、積極的に参加する。 ○ 受講後は、ワークシートやテキストを基に大切なことをしっかり習得する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
まとめのテスト	40
参加状況	20
提出物	40

教科書			
教科書 1	わたしたちの家庭科5.6年		
出版社名	開隆堂	著者名	鳴海多恵子 編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	小学校学習指導要領解説家庭科（2020年4月告示 文部科学省）		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	

参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
教員実務経験
小学校教諭38年の実務経験がある教員が実践に基づいて講義する

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	第1回：家庭科の目標及び内容 学習指導要領をもとに、家庭科の目標を理解し、A・B・Cに分類された内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解する。 ・学習指導要領を元にまとめる
2	第2回：「家族・家庭生活」について（1） 「家族・家庭生活」の内容を理解し、家庭の仕事と生活時間の学習内容を知る ・家庭の仕事の学習内容を調べる ・生活時間の学習内容を調べる
3	第3回：「家族・家庭生活」について（2） 家族や地域との関わりに関する学習内容を知る。（4）の課題例について考える ・B領域の食領域を題材レベルで調べる ・家族との関わりについて調べる ・地域との関わりについて調べる
4	第4回：「食生活」について（1） 「食生活」の内容を理解し、栄養に関する学習内容を食育との関連で捉える ・B領域の衣領域を題材レベルで調べる ・学習指導要領での目標を知り食育との関連を考える ・栄養指導の系統性を知る
5	第5回：「食生活」について（2） 実習時の配慮事項を知り、調理指導の系統性や料理の基本について理解、教材開発について考える ・調理実習（5．6年で扱うもの）内容や調理の基本を確認する ・ゆでる、いためる調理で基本と発展の料理を考える
6	第6回：「食生活」について（3） 和食の基本であるご飯と味噌汁の意義や行事食や郷土料理、旬食材の意義を考える ・日本の食文化の意義を考える ・ご飯と味噌汁とだしや行事食、郷土料理、旬の食材を調べる
7	第7回：「衣生活」について（1） 内容B「衣生活」の内容を理解し、洗濯や衣服の役割・季節に応じた着方の学習内容を知る ・洗濯に関する内容を知る ・衣服の働きや季節や目的等に応じた着方を考える
8	第8回：「衣生活」について（2） 内容Bの布を用いた製作活動の中で、手縫いの指導に使う教材を作成することを通して、指導内容や留意点分かる。 ・製作活動の系統性を知る ・製作活動を通して基礎縫いを確かめる
9	第9回： 「衣生活」について（3） ・製作計画を作成する ・計画に基づいて製作を進める
10	第10回：「住生活」について（1） 「住生活」の内容を理解し、整理・整頓、掃除に関する学習内容について知る ・整理・整頓と物の活用や掃除とごみの分別について知る ・家庭での実践と継続に向けてについて考える
11	第11回：「住生活」について（2） 季節に応じた住まい方に、省エネや環境の視点を加えた学習内容や工夫について知る ・住まいの役割や季節に応じた住まい方の工夫を調べる ・エコライフの実践について考える

1 2	第1 2回：「消費生活・環境」について（1） 日本「消費生活・環境」の内容を確認し、ESDの取り組みやSDGsとの関連を知る ・「持続可能な開発(社会)」の歴史的背景について調べる ・ESDと学校での実践やSDG s と学校教育の関係について調べる
1 3	第1 3回：「消費生活・環境」について（2） 推進法での消費者教育の目標を理解し、消費者市民の育成をめざす視点を考える ・食育消費者教育推進法と学校での消費者教育を調べる ・消費者市民社会をめざす消費者教育の展開を考える
1 4	第1 4回：・「消費生活・環境」について（3） 持続可能な社会の構築をめざして3 Rを基にプラごみや食品ロスについて考える ・環境と資源（資源を大切に使う、生かす)について調べる ・環境に優しいこれからの生活スタイルか考える
1 5	第1 5回：まとめ・これからの家庭科教育 家庭科教育で大切なことを振り返りこれからの家庭科教育で必要となる指導内容について理解する。まとめの試験をする。 ・家庭科の学習内容の不易・流行について知る ・これからの家庭科について考える

科目名	家庭科指導法	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	横山 和子				
クラス名					

授業目的と到達目標
家庭科指導法について以下の目標を達成することができる 1.学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容を理解している。 2.子どもの認識や思考、評価を意識した授業設計ができる 3.学習指導案の構成を理解し、学習指導案を作成することができる。 4.模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
授業概要
1.対面授業で行う 2. 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容について解説し、目標や内容区分の変遷や特徴を理解させる。 3. 内容を題材レベルで捉え、その題材の学習内容を理解させ、目標達成のための指導方法について考えさせる。 4. 学習評価を含めて、教材研究を通して学習指導案を作成し、それを具現化した模擬授業を通して授業評価、授業改善を考えさせる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
○ 計画に従って、テキストを参考に、予習しておく ○ 受講中は主体的に参加し、グループ活動や討論場面では、積極的に参加する。 ○ 受講後は、ワークシートやテキストを基に大切なことをしっかり習得する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験・模擬授業	40
提出物	40
参加状況	20

教科書			
教科書 1	小学校の教師をめざす人のための「小学校家庭科」指導法テキスト(2021年度版)		
出版社名	開隆堂	著者名	古田豊子編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献		
参考書名 1	小学校学習指導要領解説家庭科（2020年4月告示 文部科学省）	
出版社名	東洋館出版	著者名
参考書名 2	わたしたちの家庭科5.6	
出版社名	開隆堂	著者名 鳴海多恵子他著
参考書名 3		
出版社名		著者名
参考書名 4		
出版社名		著者名

参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
教員実務経験
小学校教諭38年の実務経験がある教員が実践に基づいて講義する

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	第1回：家庭科の目標及び内容 学習指導要領をもとに、家庭科の目標を理解し、A・B・Cに分類された内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解する。 ・指導要領に従ってまとめる
2	第2回：A. 家族・家庭生活の指導 内容Aの中の「団らん」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・導入を中心に指導法を考える
3	第3回：B. 衣食住の生活（食領域）の指導 内容Aの中の「献立作り」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・展開を中心に指導法を考える
4	第4回：B. 衣食住の生活（衣領域）の指導 内容Bの中の衣領域「洗濯」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・全体を通して指導法を考える ・班で考えた指導法を交流する
5	第5回：B. 衣食住の生活（住領域）の指導 内容Bの中の住領域「そうじ」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・全体を通して指導法を考える ・班で考えた指導法を交流する
6	第6回：C. 消費生活・環境の指導 内容Cの消費生活・環境に関して、消費生活に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・全体を通して指導法を考える ・班で考えた指導法を交流し理解している。
7	第7回：B.（5）製作活動の指導 内容Bの布を用いた製作活動の中で、手縫いの指導に使う教材を作成することを通して、指導方法や留意点を考えることができる。 ・製作活動の基本を知る ・製作を通して指導の留意点を考える
8	第8回：B.（3）調理の指導 内容Bの調理に関する指導で、ゆでる調理（卵・ジャガイモ等）の実習を通して指導方法や留意点を考えることができる。 ・調理実習の基本を知る ・調理を通して指導の留意点を考える
9	第9回：教材研究の仕方 授業設計に関して、基本的な課程と留意点がわかり、題材の目標設定や目標に応じた指導計画や評価計画を立てることができる。 ・授業設計の基本を知る ・目標や指導計画を考える

1 0	第1 0回：学習指導案の書き方 児童観・題材観・指導観を理解し、自分の考えを表現することができる。本時の指導に関して、指導案の書き方を踏まえて、わかりやすい本時案を書くことができる。 ・児童館、題材観、指導観書く ・本時の指導案を書く
1 1	第1 1回：模擬授業の学習指導案作り 模擬授業に向けて、グループで題材を考え、教材研究を通して学習指導案を作り、計画的に準備を進めることができる。 ・グループを決め題材を考える ・模擬授業の学習指導案を作る
1 2	第1 2回：模擬授業の準備 模擬授業に向けて、教材研究や学習指導案に基づき、計画的に準備を進めることができる。 ・模擬授業の準備をする ・本時の細案を書く
1 3	第1 3回：模擬授業（1）B 模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。 ・Bの内容の模擬授業をする ・討議会を通して授業のポイントについて学ぶ
1 4	第1 4回：模擬授業（2）AC 模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。 ・ACの内容の模擬授業をする ・討議会を通して授業のポイントについて学ぶ
1 5	第1 5回：まとめ・これからの家庭科教育 家庭科の学習指導で大切なことを振り返り、これからの家庭科教育で必要となる指導内容や課題解決学習を主とした指導方法について理解する。まとめの試験をする。 ・家庭科指導法についてポイントをまとめる ・これからのあり方について考える

科目名	教育課程総論（初等）	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	田中 幸代				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
教育課程の意義や目的、役割を理解し、教育課程の編成方法を理解する。また、幼児理解を踏まえた指導計画の作成の基本と作成方法を学ぶ。 教育課程の編成から評価を改善に生かす「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解する。
授業概要
対面授業 幼児が健やかに成長していくためには、教育課程・全体的計画の編成のもと、指導計画を作成し、それらに基づく教育実践が必要であることを、講話を通して理解する。 また、幼稚園の実践事例やDVD視聴等を通して、幼児理解を深め、指導計画の作成と評価・改善につなげていく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教育課程の編成・指導計画の作成には、幼稚園教育要領の理解が大切であるので、幼稚園教育要領解説を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、幼児教育の視野を広げるようにしましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験	50
授業内の課題・レポート・授業への取り組み	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領解説		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

幼稚園教諭・園長の経験を活かし、教育課程の編成や指導計画の作成の具体的な指導を行う

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 「教育課程総論で学ぶこと」 授業の目標・内容を知り、受講に関しての目的意識を明確にする
2	幼児期の教育の基本 「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」
3	教育課程の意義と目的
4	教育課程・全体的な計画の編成について
5	教育課程に基づく、指導計画の作成の基本的な考え方
6	指導計画作成上の留意事項について
7	指導計画作成のポイント① 3歳児クラス 園生活や遊びを通して3歳児の発達と学びの過程を考える
8	指導計画作成のポイント② 4歳児クラス 園生活や遊びを通し4歳児の発達と学びの過程を考える
9	指導計画の作成のポイント③ 5歳児クラス 園生活や遊びを通して5歳児の発達と学びの過程を考える
10	幼児期の教育と小学校教育の接続 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の考え方と指導計画の関係
11	月の指導計画（月案）作成の実際
12	週の指導計画（週案）作成の実際
13	日の指導計画（日案）の作成の実際
14	カリキュラムマネジメントの意義と重要性について
15	まとめと授業内試験

科目名	教育学概論（初等）	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	阪本 美江				
クラス名					

授業目的と到達目標
現代的な教育の諸課題を多角的な視点で考察するために、教育の基本的概念を身に付ける。学校教育および子どもの歴史の変遷と思想について学ぶ。
授業概要
本年度の授業は、新型コロナウイルスがまだ終息しない状況を踏まえて、遠隔でおこなう（zoomを使う予定。zoomのURLやミーティングIDなどを含めた詳細は、2021年9月中旬頃UNIPAにて案内予定。必ず確認してください）。 教員がこれまで教育課程論、教育原理、教育学概論、教育史を担当してきた経験を活かし、特に初等教育を念頭に置いて、教育の基礎的概念、理論、歴史、制度及び教育問題をはじめとした今日的課題について説明する。本授業を通して、教育者としての資質を養うことを目指す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・ 毎回授業の前半は講義形式、後半は個人発表（担当ページのレジメを作り発表）をしてもらいます。 ・ 出席重視。6回以上の欠席は認めません。 ・ あくまでも、以上が評価対象であることに注意してください。 ・ 教職をめざすものとしての自覚を持って、積極的に授業に参加して下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
テキストの担当するページのレジユメ発表（個人発表）	40
毎回授業の最後に作成するミニ感想	60

教科書			
教科書 1	『よくわかる教育原理』（2018年2月）		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	汐見稔幸、他
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	『新版 よくわかる教育学原論』（2020年05月）		
出版社名	有斐閣アルマ	著者名	安彦忠彦、他
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
平成26年4月～平成31年3月 奈良女子大学大学院博士前期課程・後期課程の学生の修士論文・博士論文の執筆指導 平成31年1月 大阪芸術大学短期大学部「教育原理・教育社会学」学習指導書の作成

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育学とは何か：教育制度、教育方法、教育史、教育思想、教員養成と教職。個人発表
2	学ぶことと教えることの意味：「人間形成」および「教育」の概念規定、家庭教育、社会教育、生涯教育。個人発表
3	教育の歴史と思想①～欧米編：欧米の公教育の成立。欧米の思想家の理念（コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、デューイ）。個人発表
4	教育の歴史と思想②～日本編：前近代の教育。支配者の教育と民衆の教育、藩校、寺子屋、吉田松陰。個人発表
5	教育の歴史と思想③～日本編：近代公教育制度の成立～戦後の教育まで。学制、教育勅語、大正自由教育運動（小原國芳、木下竹次など）、国定教科書、戦後教育改革・国民権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書。個人発表
6	現代教育の形態と教育に関する法規：教育基本法、「法律に定める学校」の特徴、文部科学省、中央教育審議会。個人発表
7	教育課程と教育心理の基礎①：教育課程（学習指導要領、ゆとり・脱ゆとり教育、学力、PISA調査、教育評価）、人間の成長と発達（ポルトマン、ピアジェ、ヴィゴツキー）。個人発表
8	教育心理の基礎②：遺伝と環境、学校・家庭・社会の相互関係、家庭のしつけの今昔、教育される子どもたち。個人発表
9	日本における教育改革の動向と背景①：「個性尊重」の時代、総合的な学習の時間、教科と特別活動、現代の教育問題（いじめ、不登校、虐待など）。個人発表
10	日本における教育改革の動向と背景②：近年のカリキュラムの動向（環境教育、国際理解教育、メディア・リテラシーの教育、人権教育、表現教育など）。個人発表
11	日本における教育改革の動向と背景③：学習指導要領の変遷、新学習指導要領の特徴（外国語科の設置、道徳の教科化など）。個人発表
12	日本における教育改革の動向と背景④：新学習指導要領の特徴（「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」「プロミラミング体験」）。個人発表
13	特別支援教育の歴史と思想①：障害児教育の歴史、障害のある子どもの教育を受ける権利、発達障害、インクルーシブ教育、特別支援教育制度。個人発表
14	特別支援教育の歴史と思想②：通常学級で支援が必要な子どもたち（視機能の問題に着目して）。個人発表
15	これからの日本に求められる学校教育の在り方（教育学概論全体のまとめ）。個人発表

科目名	教育実習Ⅰ（指導・初等）	年次	3	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					

授業目的と到達目標
教職課程における最重要課題の1つに「教育実習」があります。現場の学校で実際に体験することは何事にも代えることのできない貴重な体験です。実習前の心構えや必要な事項について学ぶと共に終了後の振り返りも含め、教員への意識化を図っていきます。
授業概要
（対面授業） 「子どもふれあい体験」等の経験をベースに実習時の心構えや対応について、きめ細やかに指導を行います。実習時に必要なノウハウを身につけていきます。また、疑問点や不安等についても丁寧に指導していきます。 ※実習事前指導を13回 事後指導を2回計画しています。事後指導については、10月中旬～11月に同一曜日、時間に予定しています。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
3年次は、演習Ⅱ担当の先生に。4年次は、ゼミ担当の先生が実習校を訪問し、直接指導を行なってもらいます。提出義務や提出期間を厳守し大阪芸大生として恥ずかしくない態度で臨んで下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業への参加意欲・出席	50
レポート課題	50

教科書			
教科書 1	小学校 教育実習ガイド		
出版社名	萌文書林	著者名	石橋裕子・梅沢実・林幸範
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
学校長・教育委員会勤務の経験を活かし実務的な内容を経験を元に指導を行ないます。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	（対面） ガイダンス 教育実習の法的位置づけとその役割
2	（対面） 事前オリエンテーションで必要なこと
3	（対面） 小学生の発達と成長
4	（対面） 教育委員会と学校
5	（対面） 学校の日
6	（対面） 学級における「配慮の必要な子ども」について
7	（対面） 子どもや先生との関り
8	（対面） 学級経営について
9	（対面） 小学校において「配慮」しておきたいこと
10	（対面） 「授業」「板書」の工夫の仕方
11	（対面） 教育実習簿の記載の仕方
12	（対面） 実習時における「挨拶」について
13	（対面） お礼状の書き方と実習関係書類の書き方
14	（対面） ○実習終了後の事後指導① 10月頃に別日実施。
15	（対面） ○実習終了後の事後指導② 10月頃に別日実施。

科目名	教育実習Ⅰ（指導・初等）	年次	3	単位数	1
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	赤松 綾子				
クラス名	【幼・事前事後指導】				

授業目的と到達目標
教育実習は、幼稚園教諭免許状を取得するために不可欠なものです。 実習Ⅰは教室での学びとは異なる、現場での初めての学びです。 専門性を身につけるため、机上で学んだことを実際に生かすことが出来るのが、実習です。 幼稚園現場で、幼児理解や様々な活動を体得したことを省察し、幼児教育の専門性の獲得につなげます。
授業概要
対面授業 実習とは何かについて学びます。それぞれの時期の子どもの特性や保育技術について身に付けたことを現場で活かすためにはどうするのかなど事前指導で学びます。 保育指導案の作成の仕方や保育記録の書き方を学びます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
それぞれが課題をもち、積極的に教育実習に取り組みましょう。そのため には、どのような準備が必要なのかを考え、準備をしましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
実習評価	80
実習課題および事前準備	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
担当者は、幼稚園教員免許（１種）長年の現場経験あり

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育実習の手順について ・オリエンテーション ・実習Ⅱの概要 ・個人票について
2	実習の目的について ・なぜ必要なのか
3	観察実習、参加実習の違いについて ・事例を通して
4	実習に向けての基本的な心構え① ・実習に臨む姿勢について
5	実習に使う名札づくりをする ・デザインする
6	実習に向けての基本的な心構え② ・子どもへの自己紹介文を考える ・模擬保育(自己紹介)
7	実習記録の取り方について① ・例文とその添削を通して
8	実習記録の取り方について② ・子どもの姿から記録の文言にする
9	保育指導案の立て方について(部分実習)① ・子どもの姿を読み取る ・「活動」「ねらい」「指導上の留意点」「環境構成」などの書き方を知る
10	保育指導案の立て方について(部分実習)② ・各年齢に沿った遊びとは ・部分実習の保育でどのような遊びをするのかを考える
11	保育指導案を作成する ・部分実習の保育指導案を作成する ・模擬保育(手遊び等)
12	教育実習
13	教育実習
14	実習を終えての振り返り ・お礼状を書くことについて
15	実習期間の体験、学んだこと、実際の子どもの姿から、発表をし、意見交換を実施する。

科目名	教育実習Ⅰ（初等）	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	実習		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					

授業目的と到達目標
教職課程における最重要課題の1つに「教育実習」があります。現場の学校で実際に体験することは何事にも代えることのできない貴重な体験です。実習前の心構えや必要な事項について学ぶと共に終了後の振り替えりも含め、教員への意識化を図っていきます。
授業概要
（対面授業） 「子どもふれあい体験」等の経験をベースに実習時の心構えや対応について、きめ細やかに指導を行います。実習時に必要なノウハウを身につけていきます。また、疑問点や不安等についても丁寧に指導していきます。 ※実習事前指導を13回 事後指導を2回計画しています。事後指導については、10月中旬～11月に同一曜日、時間に予定しています。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
3年次は、演習Ⅱ担当の先生に。4年次は、ゼミ担当の先生が実習校を訪問し、直接指導を行なってもらいます。提出義務や提出期間を厳守し大阪芸大生として恥ずかしくない態度で臨んで下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業への参加意欲・出席	50
レポート課題	50

教科書			
教科書 1	小学校 教育実習ガイド		
出版社名	明文書林	著者名	石橋裕子・梅沢実・林幸範
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			

出版社名		著者名	
------	--	-----	--

参考URL
特記事項
教員実務経験
学校長・教育委員会勤務の経験を活かし実務的な内容を経験を元に指導を行ないます。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	（対面） ガイダンス 教育実習の法的位置づけとその役割
2	（対面） 事前オリエンテーションで必要なこと
3	（対面） 小学生の発達と成長
4	（対面） 教育委員会と学校
5	（対面） 学校の日
6	（対面） 学級における「配慮の必要な子ども」について
7	（対面） 子どもや先生との関り
8	（対面） 学級経営について
9	（対面） 小学校において「配慮」しておきたいこと
10	（対面） 「授業」「板書」の工夫の仕方
11	（対面） 教育実習簿の記載の仕方
12	（対面） 実習時における「挨拶」について
13	（対面） お礼状の書き方と実習関係書類の書き方
14	（対面） ○実習終了後の事後指導① 10月頃に別日実施。
15	（対面） ○実習終了後の事後指導② 10月頃に別日実施。

科目名	教育実習Ⅰ（初等）	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2021年度 後期	形態	実習		
教員名	赤松 綾子				
クラス名	【幼・事前事後指導】				

授業目的と到達目標
教育実習は、幼稚園教諭免許状を取得するために不可欠なものです。 実習 I は教室での学びとは異なる、現場での初めての学びです。 専門性を身につけるため、机上で学んだことを実際に生かすことが出来るのが、実習です。 幼稚園現場で、幼児理解や様々な活動を体得したことを省察し、幼児教育の専門性の獲得につなげます。
授業概要
対面授業 実習とは何かについて学びます。それぞれの時期の子どもの特性や保育技術について身に付けたことを現場で活かすためにはどうするのかなど事前指導で学びます。 保育指導案の作成の仕方や保育記録の書き方を学びます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
それぞれが課題をもち、積極的に教育実習に取り組みましょう。そのため には、どのような準備が必要なのかを考え、準備をしましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
実習評価	80
実習課題および事前準備	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
担当者は、幼稚園教員免許（１種）長年の現場経験あり

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育実習の手順について ・オリエンテーション ・実習Ⅱの概要 ・個人票について
2	実習の目的について ・なぜ必要なのか
3	観察実習、参加実習の違いについて ・事例を通して
4	実習に向けての基本的な心構え① ・実習に臨む姿勢について
5	実習に使う名札づくりをする ・デザインする
6	実習に向けての基本的な心構え② ・子どもへの自己紹介文を考える ・模擬保育(自己紹介)
7	実習記録の取り方について① ・例文とその添削を通して
8	実習記録の取り方について② ・子どもの姿から記録の文言にする
9	保育指導案の立て方について(部分実習)① ・子どもの姿を読み取る ・「活動」「ねらい」「指導上の留意点」「環境構成」などの書き方を知る
10	保育指導案の立て方について(部分実習)② ・各年齢に沿った遊びとは ・部分実習の保育でどのような遊びをするのかを考える
11	保育指導案を作成する ・部分実習の保育指導案を作成する ・模擬保育(手遊び等)
12	教育実習
13	教育実習
14	実習を終えての振り返り ・お礼状を書くことについて
15	実習期間の体験、学んだこと、実際の子どもの姿から、発表をし、意見交換を実施する。

科目名	教育実習Ⅲ（初等）	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	実習		
教員名	田中 幸代				
クラス名					

授業目的と到達目標
幼稚園教諭を目指すための後半の教育実習です。前半の教育実習の成果と課題を生かして、さらに充実した教育実習となるよう取り組みましょう。 教育実習を通して幼児理解を深め、幼児一人一人に応じた適切な援助方法を学び、幼稚園教諭となるにふさわしい専門性の獲得を目指します。
授業概要
対面授業 教育課程と指導計画について学びを深め、保育指導案の作成につなげます。また、教育実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学びます。 実習終了後は、自己評価と振り返りを行い、自らの課題を明らかにし、学びを確かなものにしていきます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
それぞれが課題意識をもち、積極的に教育実習に取り組みましょう。そのために、どのような準備が必要なのかを考え、準備を行いましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
実習評価	90
授業内課題及びレポート等提出物	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領解説		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
幼稚園教諭・園長の経験を生かし、実習に必要な事項について具体的に指導する

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション ・ 前回の実習の課題を明らかにする ・ 実習の目標について
2	実習園事前訪問について ・ 実習園の概要、事前準備、訪問に際して等
3	教育課程と指導計画について ・ 9、10月の子どもの姿とは ・ 環境構成とは
4	教育課程と指導計画について ・ 9、10月の保育内容とねらいは ・ 指導者の援助・配慮は
5	保育指導案を作成してみよう① ・ 保育内容
6	保育指導案を作成してみよう② ・ 環境構成、指導者の援助・配慮
7	教材作成①
8	教材作成②
9	模擬保育と討議①
10	模擬保育と討議②
11	保育記録の記入の仕方について DVDを視聴し、実習場面を設定して実際に記録する
12	子どもとの関わりについて 実習中に想定される様々な子どもとの関わりについて、事例をもとに考え、意見交換を行う。
13	教育実習に向けての保育指導案の作成① 担当する学年の子どもの姿より、環境構成、活動の展開、教師の指導・援助の内容を具体的に考える。
14	教育実習に向けての保育指導案の作成② 保育指導案の修正、教材作成
15	実習に向けての留意事項の再確認

科目名	教育社会学（初等）	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	今西 康裕				
クラス名					

授業目的と到達目標
社会学のものの見方や考え方、その諸特徴の理解をはかった上で、これを用いて教育やその主たる対象である子どもたちに関連する諸問題を分析し、教育に対する視点をより多面的・多角的なものとすることを目指す。そして、受講生個々人が今後自らの家庭生活や職業生活において、教育という事象やこれに関する諸問題に向き合う際、そうした複眼的な視点から教育や当該の問題の本質に迫ることができるよう、また問題の解決がはかれるよう努めたい。
授業概要
遠隔授業 他の学問とく同じ教育を研究対象とする教育学との比較を交えて、教育社会学の視点の独自性や学問的性格を明らかにし、その研究領域として三つのもの、すなわち、社会（的行為）としての教育、社会から（学校教育をはじめとした）教育への影響、逆に、教育が社会へ及ぼす影響、があることを踏まえながら、いじめや不登校といった子どもたちの教育に関連する諸問題を、この教育社会学の枠組みを用いて考察し、新たな知見の獲得をはかりたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
ただ受動的に講義を聴くのではなく、これまでの自らの学校教育での経験やそこで感じたこと等を参照とし、また、将来教育者として子どもたちと関わることを想定して、より主体的に思考をめぐらせ意見表明を行う等、積極的に授業参加してほしい。また、教育や社会に関する事柄に日頃から問題関心をもち、書物等を通して、それらについての情報収集や状況把握を心掛ける態度や姿勢を身につけてほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
受講態度・授業への参加姿勢・意欲、提出物の提出状況やその内容の充実度等で総合的に評価する。	100

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業中に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			

出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	研究対象としての教育
2	社会学の視点
3	社会としての教育
4	社会が教育に与えるもの
5	教育が社会に与えるもの
6	社会化と教育
7	家族の社会化機能
8	仲間集団の意義と機能
9	学校教育の機能
1 0	地域社会と教育
1 1	「教育格差」にまつわる諸問題
1 2	現代社会と教育①（ジェンダーや情報化をめぐる諸状況と教育）
1 3	現代社会と教育②（高齢化・国際化をめぐる諸状況と教育）
1 4	学校安全への対応等、今日の教育現場に関する諸問題
1 5	これまでの授業内容のふりかえりとまとめ

科目名	教育心理学（初等）	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	山田 佳代子				
クラス名					

授業目的と到達目標
教育心理学の基礎的な知識の習得や用語を理解する。そして、教育現場の様々な問題場面において、子どもの発達に沿った接し方ができるように、心理学的な知識の応用・技能の習得を目指す。
授業概要
遠隔授業 教育心理学とは、教育に関係のある事象を心理学的に研究し、教育活動の効果を高めるのに有効な心理的知見と技術を提供する学問である。その領域は多岐にわたっているが、本講義では、発達・学習・教授・人格・適応・測定・評価などについて、系統的に学んでいく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎回、資料を配布（配信）する。 テーマ毎に教科書のページを提示したり、解説をしていくので、授業内容（教科書・資料など）を見直すこと。次回のテーマについて、教科書の該当する部分を読んでおくこと。 出席については、数題の小課題を毎回提出することで、出席とみなすので注意すること。 また、児童書や絵本を紹介するので、内容や子どもの姿などについても理解を深めて欲しい。真摯な姿勢で臨んでほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
レポート	70
授業への取り組み（授業内の課題提出など）	30

教科書			
教科書 1	やさしい教育心理学 第5版		
出版社名	有斐閣アルマ	著者名	鎌倉雅彦・竹綱誠一郎
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	適宜、指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
実務経験：（元）保健所の母子保健事業嘱託

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育心理学とは 教育心理学の概要について理解すると共に、研究法や領域などについて学ぶ
2	発達 I 発達とは何か、発達の原理や法則、発達課題について学ぶ
3	発達 II 胎児期から青年期までの発達過程を学ぶ
4	学習と教授 I 心理学でいう「学習」の意味を理解し、基本的な学習理論などを学ぶ
5	学習と教授 II 動機づけ、自己効力感などについて学ぶ
6	学習と教授 III 記憶について学ぶ 具体的には、記憶の過程や短期記憶・長期記憶、方略、忘却曲線、カクテルパーティ効果などについて学ぶ
7	学級集団 学校における基本的な単位である学級集団について、理解を深める
8	人格・適応 I パーソナリティとは何か？パーソナリティについて、その意味や理論を理解する また、類型論についても学ぶ
9	人格・適応 II 適応や適応機制について学ぶ
10	人格・適応 III 子どもの問題行動や心身症、発達障害について学ぶ
11	パーソナリティの測定 主な性格検査（作業検査を含む）について学習する
12	カウンセリング カウンセリングとは何か、歴史や理論などについて学ぶ
13	測定・評価 I 教育評価とは何か、その目的や種類・方法などについて理解する
14	測定・評価 II 学力評価について学ぶ 具体的には、教師作成テストや客観テストについて学習する また、簡単に教育統計や指導要録などについても学ぶ
15	測定・評価 III 知能及び知能検査について学ぶ IQの表示法を学ぶ

科目名	教育相談（初等）	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	梅林 厚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
1) 学校教育における教育相談の重要性を認識し、教育相談の方法や教育相談の実際について理解することができる。 2) 「学校における」教師の相談のあり方として、基本的なカウンセリングの技法を使用することができる。 3) 様々な子どもの問題行動について、教師としてどのように対応するべきか、見通しを立てることができる。
授業概要
対面授業 不登校やいじめ、虐待など、今日の子ども、保護者、教師を取り巻く環境・問題を考察しながら子どもを正しく理解し、問題を抱えた子どもにどのように指導・援助していけばよいのか臨床心理学の知見をふまえ、幅広く学ぶ。また、基本的なカウンセリングの知識や技術を学ぶと共に、教師が行う「学校における」カウンセリングのあり方、及び、校内や地域などとの連携について理解を深め、その基本的な態度を身につけ、教育現場で活用できる力を養う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教員になろうという使命を自覚し、現代の教育上の諸問題に関心を向けておくことが望ましい。そのためにも、関連の書物を読んだり、新聞やニュースなどを見たりする習慣をつけておいてほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
小テスト	40
授業コメントシート	30
受講態度	30

教科書			
教科書 1	毎回、資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	教師のための教育相談の基礎		
出版社名	三省堂	著者名	久芳美恵子
参考書名 2	新・教職課程シリーズ 「教育相談」		
出版社名	一藝社	著者名	田中智志・橋本美保監修、羽田 紘一編著
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
小学校教諭、カウンセラー（臨床心理士・学校心理士）としての経験を織り込みながら、授業を展開します。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育相談について 教育相談の意義と役割、教育相談の内容、教育相談の機能（心理教育的援助サービス）について解説する。
2	学校教育における教育相談の歩みについて 教育相談の歴史や生徒指導と教育相談の関係、生徒指導の組織や学校と専門機関の相談の相違点について解説する。
3	カウンセリングの理論について 精神分析、来談者中心療法、行動療法など、代表的なカウンセリング理論を解説する。
4	カウンセリング・マインドについて 傾聴することの意義や傾聴の基本的な考え方（受容・共感・自己一致など）、傾聴技法（あいづち、繰り返し、明確化など）について解説する。
5	教師のカウンセリング・マインドについて DVD「学校教育とカウンセリング」を用い、実際の個別面接場面「教師による事例」を視聴することで、積極的傾聴の認識を深める。
6	グループアプローチについて 対人関係能力を育てるエンカウターの役割を解説し、構成的グループエンカウターについての認識を深める。
7	子どものパーソナリティ理解について 子どもの欲求や発達課題、問題行動の意味や対応などを解説する。
8	発達障がいへの対応について 発達障がいの基礎知識を学び、発達障がいのある子どもへの対応について解説する。
9	いじめへの対応について いじめの構造やいじめの形態などを学び、いじめの予防やいじめへの対応について解説する。
10	不登校への対応について 不登校の類型や不登校の経過などを学び、不登校への対応について解説する。
11	非行への対応について 少年法における「非行少年」のとりえ、非行の心理的原因などを学び、非行への対応について解説する。
12	虐待への対応、危機介入について 虐待が子どもに及ぼす影響について解説する。また、学校危機への対応や危機後の心理教育のあり方、チーム援助についても紹介する。
13	教育相談のためのアセスメントについて 知能検査や性格検査（投影法、質問紙法、作業検査法）など、心理アセスメントについて解説する。 小テスト
14	保護者との連携、支援のあり方について 保護者の心理を理解し、保護者対応の基本的な流れについて解説する。
15	学校内での連携、地域社会・関係機関との連携について 教育相談担当の役割、養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの校内での教育相談体制のとり方、及び、学校外における専門機関等との連携のあり方について解説する。 後期の振り返り

科目名	教育方法論（初等）	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	芝本 哲也				
クラス名					

授業目的と到達目標
1. これからの社会を創る子どもたちを育成する上で、求められている教育とは何かを学び、説明できるようになる。 2. いわゆる「すぐれた授業」とは、どのようなものであるかについて考え、意見を交わしあい、目標とする授業について自分の言葉で語れるようになる 3. 各講義時間内の発表や意見交流、模擬授業などを通して教育に関わる者としての基礎・基本を培う。
授業概要
・本講義は、原則対面授業で行います。 ・教育に関連するを人材の育成を念頭に置いて授業をすすめます。 ・講義内容から教育に関わるうえで大切な事や、激動する社会の中でどのような教育が求められているのか、基礎的な指導内容と指導上の留意点を網羅した講義を行います。 ・学生同士の積極的な意見交流を行い、課題について考える取り組みを行い、コミュニケーション能力の向上を図ります。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・教育に関わる者となるにふさわしい態度で受講してください。 ・一人ひとりの子どもが、いかに興味・関心・意欲を持ち、学校園での生活を楽しみにして成長していく事ができるよう、指導者としてどう考え、実践するか、柔軟な思考を持つようにする。 ・積極的な意見交流を行い、各自の考えを拡げるようにする。 ・各授業の終わりに小レポートの提出を課すことがある。また、講義のまとめとして、模擬授業プレゼンの実施と最終レポートの提出を求める。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題レポート（講義後レポート等）	35
講義、討論への積極的参加	20
模擬授業プレゼン、授業指導略案	35
最終レポート	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領（総則）」など、必要に応じて、その都度示す		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	

参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
教員実務経験
大阪府立大学卒、精密機器メーカー技術員、大阪府公立学校教員・管理職、富田林市教育委員会指導主事・教育長を経て現職

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業計画のガイダンス。（授業の流れ、評価について理解する）
2	これからの社会の動きから、幼保園、小学校における子どもの健全な育成に求められるものについて考え、学ぶ。
3	幼稚園要領、学習指導要領から、これからの教育に求められることを学び、理解する。
4	「主体的、対話的で深い学び」について基本の流れや考え方を学び、理解する。
5	ユニバーサルデザインの活用、インクルージョン・ダイバーシティの考え方を教育に活用する事を考え、学ぶ（1）。
6	ユニバーサルデザインの活用、インクルージョン・ダイバーシティの考え方を教育に活用する事を考え、学ぶ（2）。
7	授業の構造化について理解し、学ぶ。
8	GIGAスクール構想がすすむ中で、ICT機器の活用を考え、学ぶ。
9	子ども理解について、具体的な事案をもとに考え、その指導内容を発表し合い、考えを交流し、深める（1）。
10	子ども理解について、具体的な事案をもとに考え、その指導内容を発表し合い、考えを交流し、深める（2）。
11	授業計画と実施について考え、学び、理解する。 次授業から取り組む模擬授業実践に向けた説明を聞き、概要を理解する。
12	模擬授業実践（1）提示された「単元の導入部」について、模擬授業を設計・検討・作成する。
13	模擬授業実践（2）前時に作成した、「単元の導入部」の模擬授業をプレゼンし、意見交流し、互いに高めあう。
14	模擬授業実践（3）前時に続き、導入部の模擬授業をプレゼンし、互いに高め合う。
15	講義のまとめ。最終レポートの提出。

科目名	教職概論（初等）	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					

授業目的と到達目標
教職の意義・教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し進路選択に資する教職のあり方を理解させる。
授業概要
（対面授業） 教員として必要な基礎知識を学ぶ機会と捉え、大きく4本の柱を中心に授業を進める。①教職の意義②教員の役割③教員の職務内容④チーム学校運営への対応。具体的事例や討議を中心に自己の考えをできるだけ発表できる機会を持つ。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
テキストをしっかりと読み込み、授業に備えること。レポート課題には自分の考えが表せるようしっかりとまとめること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
定期試験（筆記）	70
課題レポート	30

教科書			
教科書 1	「新しい時代の教職入門		
出版社名	出版出）有斐閣出版著	著者名	著者」）秋田喜代美・佐藤学
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領・小学校学習指導要領		
出版社名	出版（出）文部科学省	著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
校長・教育委員会指導主事の経験を活かし事例を交えてわかりやすく解説する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	（対面） 初年次教育② 相談窓口の周知、個別相談の仕方、健康・メンタルへの対応 教職をめざす 教職をめざす立場から、公教育の目的や教員の役割について討論を中心に考察する。
2	（対面） 教員の日々の仕事について 幼稚園や小学校の教員の1日の仕事を調べ、その特質を理解する。
3	（対面） 子どもを育む① 成長・発達の間から幼児期・児童期にある子どもの発達の特性を理解する。
4	（対面） 子どもを育む② 個の理解。一人ひとりの子どもを理解し、望ましい発達を支える教員の役割を考える。
5	（対面） 保育者や授業者としての教員 保育や授業の展開にあたっての教員が果たすべき具体的な役割を考える。
6	（対面） 教員に今、求められていること。 教員として現場で必要な能力とは何かを考える。
7	（対面） 教員として生きる①教員のライフステージ 幼児・児童・生徒への指導および指導以外の役割について理解する。
8	（対面） 教員として生きる②コンプライアンス 良き社会人、信頼される教員としての生き方考える。
9	（対面） 教員に求められる危機管理意識 子どもの安全確保など教員に求められる危機管理意識について考える。
10	（対面） 教員のメンタルヘルス 教員のメンタルヘルスに関わる現状を知り、合わせて自分の生き方考える。
11	（対面） チーム学校への対応①保護者・地域住民と 教員として、地域住民や保護者とどのように連携すべきか考える。
12	（対面） チーム学校への対応②専門家・連携機関と（SC・SSW等） SC・SSWの役割について理解し、学校現場での取り組みを理解する。また、関係諸機関との連携の実際を知る。 「虐待事案」への組織的対応について。
13	（対面） チーム学校への対応③連携の実際 学校現場で行なわれている具体的な実践例（ケース会議等）について理解し、専門的知識をもとにしたアセスメントについて考える。 「いじめ」事案をもとに校内連携を考える。
14	（対面） 教員になるために、教職課程を見通し、コース選択を考える。 今後の教職課程の選択について考え、自らの進む方向を決める。また教員採用試験についてその概要をしる。
15	（対面） まとめ（教員をめざすために必要なことについてワークシートにまとめる。 まとめと試験。

科目名	教職実践演習（初等）	年次	4	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	車谷 哲明、村上 優、小山 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
教職課程の最終学年における、「学びの軌跡の集大成」として、将来幼稚園や小学校の教員となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補う。
授業概要
（対面授業） 幼稚園教員、小学校教員として教育現場に出るために、自身の課題を見つめなおし、指導力の向上のための学修を自主的協働的に進める。また、教育委員会事務局などから外部講師を招き、教育現場の現状理解を深め、事例研究等を通して、「信頼される教員」となるための実践的な指導力、人間力を身につける。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教育実習やふれあい体験を通して学んだことを改めてこの授業で検証し教員として必要な最低の能力が身に付けれるよう積極的に学んでいくこと

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
レポート	50
授業内での発言や取り組み	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	適宜授業内で配布します。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
実務家教員の経験を活かし（校長・小中学校教員・教育委員会勤務）実践に役立つ指導を行なう。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	（対面） ガイダンス 自己の課題を振り返り。まとめる。
2	（対面） 教員にとって成長とは何かを考える。（教育委員会指導主事）
3	（対面） 保護者対応の基本
4	（対面） 特別支援教育の考え方と通常学級での対応①
5	（対面） 特別支援教育の考え方と通常学級での対応②
6	（対面） 虐待事案への対応①
7	（対面） 日々の教育実践における人権教育 免許状一括申請説明会
8	（対面） 虐待事案への対応②
9	（対面） 教育の情報化について
10	（対面） 現場の教員との交流（幼稚園）
11	（対面） 現場の教員との交流（小学校）
12	（対面） 教員自身のメンタルヘルス
13	（対面） 学校の抱える現状と課題
14	（対面） 教員に求められるコンプライアンス（法令遵守と倫理観）
15	（対面） まとめ（振り返りレポートの作成）

科目名	芸術表現演習Ⅰ（造形）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	車谷 哲明				
クラス名	【18生以前生対象 資格科目（18生のみ）】				

授業目的と到達目標
様々な造形素材の体験を通して「造形活動」の意義や目的を理解し、子どもの表現活動を高める手立てや指導方法を身につける。素材提示から評価に至るプロセスを学び、造形活動を通して、育てるべき「力」について考察を進める。
授業概要
(対面授業) 生活の中にある造形素材に触れ、その扱いや加工法、材料・用具等の扱いを学ぶとともに「造形活動」への関心を高め、保育・教育活動への実践力を確実に高めていく。
受講上の注意
素材体験を徹底して行なう。版・紙・粘土の3課題について、子どもに指導ができるよう技術と心構えの修得をめざします。休まずに出席し、実技に積極的に取り組むこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題作品・課題レポート	80
授業・作品への取り組み態度	20

教科書情報			
教科書 1	新しい指導要領にもとづく 楽しいアート		
出版社名	昭和堂	著者名	編著 車谷哲明 井関和代
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
美術教育団体の長や校長、教育委員会指導主事（図工・美術）の実践と経験を生かした指導を進めます。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	（対面） 授業ガイダンス（授業内容と年間計画）
2	（対面） 造形活動の持つ意味（子どもの表現と造形素材について） 年齢発達と造形表現の傾向を知る。
3	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（1）写す楽しさ（フロッタージュ）の教材研究と実技指導
4	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（2）スタンピングの発展（版あそびの応用と発展教材）
5	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（3）紙版の基礎（切り取り紙版・版作りのポイントと他素材の併用）
6	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（4）紙版の基礎（切り取り紙版・効果的な貼り方と工夫）
7	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（5）スチレンを使った版あそびについて（幼児が手軽に作れる版）
8	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（1）新聞紙の活用（ちぎる・つなぐ・かざる）
9	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（2）新聞紙の活用（つつむ・かくす）
10	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（3）ダンボールの活用（つないで遊ぶ）
11	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（4）ダンボールの活用（めくって遊ぶ）
12	（対面） 素材研究 3 絵具を使った造形活動の基礎的な展開（1）大きなキャンパスに描いてみよう
13	（対面） 素材研究 3 絵具を使った造形活動の基礎的な展開（2）ローラーを使った指導の展開
14	（対面） 素材研究 4 生活素材を使った造形活動の基礎的な展開（1）プチプチを活用して窓を飾ろう
15	（対面） 素材研究 4 生活素材を使った造形活動の基礎的な展開（2）ペットボトルで遊ぼう
16	（対面） 素材研究 5 絵具を使った造形活動の応用的な展開（1）デザインしてみよう（画面構成）
17	（対面） 素材研究 5 絵具を使った造形活動の応用的な展開（2）ポスターの制作
18	（対面） 素材研究 5 絵具を使った造形活動の応用的な展開（3）ポスターの制作
19	（対面） 素材研究 5 絵具を使った造形活動の応用的な展開（4）ポスターの制作
20	（対面） 素材研究 6 粘土を使った造形活動の基礎的な展開（1）成型の基礎（板でつくる）
21	（対面） 素材研究 6 粘土を使った造形活動の基礎的な展開（2）成型の基礎（抹茶碗づくり）
22	（対面） 素材研究 6 粘土を使った造形活動の基礎的な展開（3）成型の基礎（削り）
23	（対面） 素材研究 6 粘土を使った造形活動の基礎的な展開（4）成型の基礎（干支をつくる）

2 4	(対面) 素材研究 6 粘土を使った造形活動の基礎的な展開 (5) 成型の基礎 (釉薬について)
2 5	(対面) 素材研究 7 紙を使った造形活動の基礎的な展開 (1) シンメトリーの面白さ (はさみ・カッターナイフの注意点)
2 6	(対面) 素材研究 7 紙を使った造形活動の基礎的な展開 (2) シンメトリーの面白さ (はさみ・カッターナイフの注意点)
2 7	(対面) 素材研究 7 紙を使った造形活動の基礎的な展開 (1) 紙でつくる立体造形 (折る・曲げるの技法を活用した教材づくり)
2 8	(対面) 素材研究 7 紙を使った造形活動の基礎的な展開 (2) カードの作成 (オリジナルカード教材について)
2 9	(対面) 素材研究 7 自分でつくった茶碗でお茶会をしよう
3 0	(対面) 総括とまとめ (造形表現・図画工作科教員として必要なことについて討論する)

科目名	芸術表現演習Ⅰ（造形）	年次	2	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	車谷 哲明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
様々な造形素材の体験を通して「造形活動」の意義や目的を理解し、子どもの表現活動を高める手立てや指導方法を身につける。素材提示から評価に至るプロセスを学び、造形活動を通して、育てるべき「力」について考察を進める。
授業概要
（対面授業） 生活の中にある造形素材に触れ、その扱いや加工法、材料・用具等の扱いを学ぶとともに「造形活動」への関心を高め、保育・教育活動への実践力を確実に高めていく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
素材体験を徹底して行なう。版・紙・粘土の3課題について、子どもに指導ができるよう技術と心構えの修得をめざします。休まずに出席し、実技に積極的に取り組むこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題作品・課題レポート	80
授業・作品への取り組み態度	20

教科書			
教科書 1	新しい指導要領にもとづく 楽しいアート		
出版社名	昭和堂	著者名	編著 車谷哲明 井関和代
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
美術教育団体の長や校長、教育委員会指導主事（図工・美術）の実践と経験を生かした指導を行ないます。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	（対面） 授業ガイダンス（授業内容と年間計画）
2	（対面） 造形活動の持つ意味（子どもの表現と造形素材について） 年齢発達と造形表現の傾向を知る。
3	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（1）写す楽しさ（フロッターージュ）の教材研究と実技指導
4	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（2）スタンピングの発展（版あそびの応用と発展教材）
5	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（3）紙版の基礎（切り取り紙版・版作りのポイントと他素材の併用）
6	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（4）紙版の基礎（切り取
7	（対面） 素材研究 1 版を使った造形活動の基礎的な展開（5）スチレンを使った版あそびについて（幼児が手軽に作れる版）
8	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（1）新聞紙の活用（ちぎる・つなぐ・かざる）
9	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（2）新聞紙の活用（つつむ・かくす）
10	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（3）ダンボールの活用（つないで遊ぶ）
11	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（4）ダンボールの活用（めくって遊ぶ）
12	（対面） 素材研究 2 紙を使った造形活動の基礎的な展開（4）ダンボールの活用（めくって遊ぶ）
13	（対面） 素材研究 3 絵具を使った造形活動の基礎的な展開（2）ローラーを使った指導の展開
14	（対面） 素材研究 4 生活素材を使った造形活動の基礎的な展開（1）プチプチを活用して窓を飾ろう
15	（対面） 素材研究 4 生活素材を使った造形活動の基礎的な展開（2）ペットボトル

科目名	芸術表現演習Ⅱ（音楽）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	豊田 千晶				
クラス名	【18以前生対象 資格科目（18生のみ）】				

授業目的と到達目標
発声や話し方など、良い表現とは何かを考える。 子供のための音楽劇の指導につながるよう、表現のいろいろを体験する。 表現の例として音楽作品やミュージカルを鑑賞・考察する。
授業概要
対面授業 幼稚園の生活発表会の指導やオペラ・ミュージカルの演出経験を活かし発声練習や歌唱練習や振り付け練習を中心に、相手に伝える表現を学ぶ。 毎回、発声練習や準備運動、コミュニケーションゲームを行う。 後期については受講者の人数や希望により内容を変更する場合があります。
受講上の注意
積極的な参加が必要です。 動きやすい服装と靴を準備してください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
表現の工夫や独創性	25
授業に取り組む姿勢	50
練習による上達	25

教科書情報			
教科書 1	必要な課題や楽譜はその都度配布します。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
実務経験：オペラ演出家、幼稚園での音楽劇指導

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業の概要説明と、各自の音楽体験を発表する。
2	腹式呼吸の意味を知る。呼吸練習・発声練習を行う。 コミュニケーションゲームの紹介。 教材とする楽譜をまとめて製本する。
3	発声練習。言葉を話す練習。その1。 コミュニケーションゲームの紹介。 振り付けの基礎。
4	発声練習。言葉を話す練習。その2。 コミュニケーションゲームの紹介。 リズムに合わせた動作やステップの練習。
5	振り付けの練習とプロンプターの練習。 知らない曲の歌詞を覚える練習と歌詞に合わせた振り付けの実習。
6	童謡を題材に、歌のお兄さん・お姉さんを演じてみる。 歌唱練習と聞き取りやすい言葉を意識した歌い方の練習。
7	童謡を題材に、歌のお兄さん・お姉さんを演じてみる。 歌唱練習と聞き取りやすい言葉を意識した歌い方の練習。
8	ドレミパイプやハンドベルでメロディーを協力して表現する練習。 例：「おばけなんてないさ」 歌唱練習と振り付け練習。
9	ドレミパイプやハンドベルでメロディーを協力して表現する練習。 例：「森のくまさん」 歌唱練習と振り付け練習。
10	音楽劇の創作 「11匹のねこ」から2曲を選び、2グループに分かれて曲の間のセリフを作る。
11	音楽劇の練習 音楽練習、セリフの練習と短い芝居の練習。
12	音楽劇の練習 音楽練習、セリフの練習と短い芝居の練習。
13	音楽劇の振り付けの練習と、2グループでの鑑賞。
14	コミュニケーションゲームの復習、振り付けやステップ練習の復習 歌唱ゲームの紹介
15	前期のまとめ 日本の伝統舞台作品の鑑賞。落語・歌舞伎・文楽 など
16	身体表現の参考になる有名なミュージカルの鑑賞。
17	自己紹介。決められた時間で話す練習や対象が変わった場合の自己紹介を考える。 よく耳にするクラシック音楽の紹介。その1
18	ペアを組み相手を取材して皆に紹介する。 よく耳にするクラシック音楽の紹介。その2
19	コミュニケーションゲームの練習。 めちゃくちゃ語や数字語での会話や通訳を行う。 よく耳にするクラシック音楽の紹介。その3
20	コミュニケーションゲームの練習。 皆で一つの言葉を繋いで物語を作る。全員で同じ文章を同時に作り、同時に話す練習。 よく耳にするクラシック音楽の紹介。その4
21	コミュニケーションゲームの練習。 アイコンタクトで動く練習。 楽譜を書く練習。例：「ハッピー・バースデー」
22	コミュニケーションゲームの練習。 架空ボール投げでコミュニケーションをとる練習。 ハンドベルで合奏パートを創る練習。 例：「ハッピー・バースデー」
23	ハンドベルで合奏パートを創る練習。 例：「キラキラ星」

	日本語の歌詞の特性を知る。
2 4	具体的な動作の基本練習。 ストップモーションで状況・情景を表現する。 歌唱練習
2 5	具体的な動作の基本練習。 ストップモーションで状況・情景を表現する。 歌唱練習
2 6	具体的な動作の基本練習。 グループでストップモーションの動作を繋げて、状況・情景を表現する。 一つの物の価値を高めたり・低めたり、動作の表現の幅を広げる練習。 歌唱練習
2 7	日常の動作を表現し、その表現に変化をつけてお互いに観察する。 日常ではない動作を表現し（後ろ向きに歩く、目隠しをして歩く）新しい感覚を知る。 アイマスクでの誘導を行う。
2 8	希望の音楽作品の鑑賞
2 9	希望の音楽作品の鑑賞
3 0	授業の総括。 一年を通じて行った表現やコミュニケーションゲームのいろいろを復習する。

科目名	芸術表現演習Ⅱ（音楽）	年次	2	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	豊田 千晶				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
発声や話し方など、良い表現とは何かを考える。 子供のための音楽劇の指導につながるよう、表現のいろいろを体験する。
授業概要
対面授業 幼稚園の生活発表会の指導やオペラ・ミュージカルの演出経験を活かし 発声練習や歌唱練習や振り付け練習を中心に、相手に伝える表現を学ぶ。 毎回、コミュニケーションゲームを行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
積極的な参加が必要です。 動きやすい服装と靴を準備してください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
練習による上達	25
表現の工夫や独創性	25
授業に取り組む姿勢	50

教科書			
教科書 1	必要な楽譜、資料はその都度配布します。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
実務経験：オペラ演出家、幼稚園での音楽劇指導

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業の概要説明と各自の音楽体験を発表する。
2	腹式呼吸の意味を知る。呼吸練習・発声練習を行う。 コミュニケーションゲームの紹介。 教材とする楽譜をまとめて製本する。
3	発声練習。言葉を話す練習。その1。 コミュニケーションゲームの紹介。 振り付けの基礎。
4	発声練習。言葉を話す練習。その2。 コミュニケーションゲームの紹介。 リズムに合わせた動作やステップの練習。
5	振り付けの練習とプロンプターの練習。 知らない曲の歌詞を覚える練習と歌詞に合わせた振り付けの実習。
6	童謡を題材に、歌のお兄さん・お姉さんを演じてみる。その1 歌唱練習と聞き取りやすい言葉を意識した歌い方の練習。
7	童謡を題材に、歌のお兄さん・お姉さんを演じてみる。その2 歌唱練習と聞き取りやすい言葉を意識した歌い方の練習。
8	ドレミパイプやハンドベルでメロディーを協力して表現する練習。 例：「おばけなんてないさ」 歌唱練習と振り付け練習。
9	ドレミパイプやハンドベルでメロディーを協力して表現する練習。 例：「森のくまさん」 歌唱練習と振り付け練習。
10	音楽劇の創作「1匹のねこ」から2曲を選び、 2グループに分かれて曲の間のセリフを作る。
11	音楽劇の練習 音楽練習、セリフの練習と短い芝居の練習。
12	音楽劇の練習 音楽練習、セリフの練習と短い芝居の練習。
13	音楽劇の振り付けの練習と、2グループでの鑑賞。
14	コミュニケーションゲームの復習、振り付けやステップ練習の復習 歌唱ゲームの紹介
15	前期のまとめ 日本の伝統舞台作品の鑑賞。落語・歌舞伎・文楽 など

科目名	芸術表現演習Ⅲ（身体）	年次	2	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	小南 佳世				
クラス名					

授業目的と到達目標
子どもの全面的な発達に向け、そして幼児や児童をはじめとした様々な対象者への身体表現活動・ムーブメント活動の重要性を学び、習得する。 幼稚園・保育所・小学校などにおける指導者・支援者に必要な感性や柔軟な思考力・創造力、そして現場での身体表現活動に必要な動きやダンスの基礎を身につける。
授業概要
対面授業（場合により、遠隔授業に変更） 動くことを通して、子どもの発達を支援する身体表現やムーブメント教育の基礎的理論や健康な心身を育む意義を学ぶ。 幼稚園・保育所・小学校などの教育現場における指導・支援にあたり、必要不可欠な身体のしくみや対処法など、実践に必要な理論を学習する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業で行った内容の理解を深める為に復習をしましょう。 ダンス技能の習得・向上には、練習が必要です。 習ったことを反復し、意欲的に学習して下さい。 授業には、動きやすい服装で出席して下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（受講時の意欲）	45
練習による各々の成果	20
身体表現・ダンス創作	15
まとめ（ダンス発表／レポート）	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	新訂運動生理学概論		
出版社名	大修館書店	著者名	宮下充正・石井喜八
参考書名 2	発達障がい児の育成・支援とムーブメント教育		
出版社名	株式会社 大修館書店	著者名	小林芳文・大橋さつき・飯村敦子
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
音楽運動療法士である教員が実際の現場で活かされる身体表現の技術習得のための実技演習を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ストレッチ 理論・実践 体の構造（筋肉・骨・脂肪）や肥満についてを学ぶ。 ストレッチの意味・意義・必要性を知り、その方法を身につける。
2	（遠隔授業） ダンスセラピー（リズムの効用） ダンスセラピーの中で、個々の快適なリズムについて学習し、他者の認識や受け入れを体験する。
3	（遠隔授業） ダンスセラピー（空間意識意識を育てる） ダンスセラピーの中で、空間や距離感を学習し、感情表現による質的空間を体験する。
4	（遠隔授業） ダンスセラピー（イメージの表現） 自分の中から生まれる身体表現を体験する。
5	（遠隔授業） ウォームアップ 理論・実践 身体運動前後の準備体操・整理体操の意義、なぜ運動が必要なのかを生活習慣病を交えて説明し、実践する。
6	（遠隔授業） ダンスの資料化 創作・習得したダンスを資料として残しておくための知識・技術を習得する。
7	（遠隔授業） 映像からの振りおこし 初等教育の現場で行うことになるであろう映像から振りをおこす練習を行う。
8	（遠隔授業） 身体運動における動機づけ 身体運動の場で生じる動機づけについて学ぶ。
9	（遠隔授業） 身体運動におけるあがりと応急処置 身体運動の場で生じるあがりについて学び、救急時の対応を習得する。
10	（遠隔授業） 授業計画 第7回目の授業で習得したダンスを、発表会などの本番に向けて子ども達に指導し、完成させていく為の目標設定や計画設定を考え、その方法を習得する。
11	（遠隔授業） 授業計画 発表会などの本番に向けて子ども達に指導し、完成させていく為の目標設定や計画設定を考え、その方法を習得する。
12	（遠隔授業） 子どものためのダンスムーブメントの展開（創作）Ⅰ お遊戯会や発表会に備え、曲・衣装・舞台装飾・ダンスの振り付けを考える。
13	（遠隔授業） 日本伝承の遊び 子ども達の運動時間の現状を把握した上で、 日本古来の子どもの遊びを知り、体験する事で、実際の教育現場で活かすことができるようにする。
14	（遠隔授業） イラスト・文章からの振りおこし 初等教育の現場で行うことになるであろうイラストや文章から振りをおこす練習を行う。
15	（対面授業） まとめ 第14回目で習得したダンスを各自発表し、授業で学んだ事に関するレポートを書く。

科目名	芸術表現演習Ⅲ（身体）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	小南 佳世				
クラス名					

授業目的と到達目標
子どもの全面的な発達に向け、そして幼児や児童をはじめとした様々な対象者への身体表現活動・ムーブメント活動の重要性を学び、習得する。 幼稚園・保育所・小学校などにおける指導者・支援者に必要な感性や柔軟な思考力・創造力、そして現場での身体表現活動に必要な動きやダンスの基礎を身につける。
授業概要
対面授業（場合により、遠隔授業に変更） 動くことを通して、子どもの発達を支援する身体表現やムーブメント教育の基礎的理論や健康な心身を育む意義を学ぶ。 幼稚園・保育所・小学校などの教育現場における指導・支援にあたり、必要不可欠な身体のしくみや対処法など、実践に必要な理論を学習する。
受講上の注意
授業で行った内容の理解を深める為に復習をしましょう。 ダンス技能の習得・向上には、練習が必要です。 習ったことを反復し、意欲的に学習して下さい。 授業には、動きやすい服装で出席して下さい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（受講時の意欲）	40
練習による各々の成果	20
身体表現・ダンス創作	10
前期のまとめ（ダンス発表／レポート）	15
後期のまとめ（ダンス発表／レポート）	15

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	新訂運動生理学概論		
出版社名	大修館書店	著者名	宮下充正・石井喜八
参考書名 2	発達障がい児の育成・支援とムーブメント教育		
出版社名	株式会社 大修館書店	著者名	小林芳文・大橋さつき・飯村敦子
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
音楽運動療法士である教員が実際の現場で活かされる身体表現の技術習得のための実技演習を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ストレッチ 理論・実践 体の構造（筋肉・骨・脂肪）や肥満についてを学ぶ。 ストレッチの意味・意義・必要性を知り、その方法を身につける。
2	（遠隔授業） ダンスセラピー（リズムの効用） ダンスセラピーの中で、個々の快適なリズムについて学習し、他者の認識や受け入れを体験する。
3	（遠隔授業） ダンスセラピー（空間意識意識を育てる） ダンスセラピーの中で、空間や距離感を学習し、感情表現による質的空間を体験する。
4	（遠隔授業） ダンスセラピー（イメージの表現） 自分の中から生まれる身体表現を体験する。
5	（遠隔授業） ウォームアップ 理論・実践 身体運動前後の準備体操・整理体操の意義、なぜ運動が必要なのかを生活習慣病を交えて説明し、実践する。
6	（遠隔授業） ダンスの資料化 創作・習得したダンスを資料として残しておくための知識・技術を習得する。
7	（遠隔授業） 映像からの振りおこし① 初等教育の現場で行うことになるであろう映像から振りをおこす練習を行う。
8	（遠隔授業） 映像からの振りおこし② 前回到続き、初等教育の現場で行うことになるであろう映像から振りをおこし、振りを習得する。
9	（遠隔授業） 身体運動における動機づけ 身体運動の場で生じる動機づけについて学ぶ。
10	（遠隔授業） 身体運動におけるあがりと応急処置 身体運動の場で生じるあがりについて学び、救急時の対応を習得する。
11	（遠隔授業） 授業計画 発表会などの本番に向けて子ども達に指導し、完成させていく為の目標設定や計画設定を考え、その方法を習得する。
12	（遠隔授業） 子どものためのダンスムーブメントの展開（創作）Ⅰ お遊戯会や発表会に備え、曲・衣装・舞台装飾・ダンスの振り付けを考える。
13	（遠隔授業） 日本伝承の遊び 子ども達の運動時間の現状を把握した上で、 日本古来の子どもの遊びを知り、体験する事で、実際の教育現場で活かすことができるようにする。
14	（遠隔授業） イラスト・文章からの振りおこし 初等教育の現場で行うことになるであろうイラストや文章から振りをおこす練習を行う。
15	（対面授業） まとめ 第14回目の授業で習得したダンスを各自発表し、前期授業で学んだ事に関するレポートを書く。
16	（対面授業） 運動会のダンス体験①

	運動会などで行うダンスを進めていく為の説明と準備を行い、資料から振りおこしを開始する。
1 7	(遠隔授業) 運動会のダンス体験② 運動会などで行うダンスを進めていく中で、必要となる小道具の作成と、資料から、前半部分の振りおこしを完成させる。
1 8	(遠隔授業) 運動会のダンス体験③ 運動会などで行うダンスを進めていく中で、資料から、後半部分の振りおこしを完成させる。
1 9	(対面授業) 運動会のダンス体験④／創作① 第16・17・18回目の授業で振りをおこし、習得したダンスを発表する。 運動会のダンス創作方法を学ぶ。
2 0	(遠隔授業) 運動会のダンス創作② 運動会のダンスを実際に創作する。
2 1	(遠隔授業) 運動会のダンス創作③ 第19・20回目の授業で創作したダンスを資料化する。
2 2	(対面授業) 運動会のダンス創作④ 音楽構成の方法を習得し、実際に創作を行う。
2 3	(対面授業) 運動会のダンス創作⑤／ダンスの指導練習 授業で創作した運動会のダンスを実際にダンスを子ども達に伝える練習をし、指導方法を習得する。 さらに創作を進める。
2 4	(対面授業) 運動会のダンス創作⑥ ダンスで使用する小道具の作成し、ダンスを完成させる。
2 5	(対面授業) 世界伝承の踊り フォークダンスについて学び、教育現場で使用頻度の高いフォークダンスを習得する。
2 6	(対面授業) ムーブメント教育・療法の概要 様々なムーブメント（感覚運動機能／身体意識や時間空間意識／心理的諸機能を育む）を学び、実際に体験する。
2 7	(対面授業) ダンスの基礎 舞踊の歴史や様々なダンスについて学び、バレエ・ジャズダンス・ヒップホップの中から、基礎的な動きを体験する。
2 8	(対面授業) 子どものためのダンスムーブメントの実際 子ども向けの曲に合わせたダンスを学び、習得する。
2 9	(対面授業) 子どもの為のダンスムーブメントの展開 子ども向けの曲に合わせたダンスの振り付けを考える。
3 0	(対面授業) 後期のまとめ 第29回目の授業で創作したダンスを各自発表し、指導練習を行い、ダンスを完成させる。 後期授業で学んだ事を振り返り、レポートを書く。

科目名	国語 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	三村 昌義				
クラス名					

授業目的と到達目標
初等教育の国語の授業、また、保育にあたっての言葉への興味を持たせ方に際して、指導者として、最低限知っておかななくてはならない、日本語に関する知識、教授法などについて学ぶ。その知識を獲得することを、到達点とする。
授業概要
対面授業
母語である日本語に関するさまざまな知識、言語文化について、実践を交えながら解説してゆく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
メモではなく、しっかりしたノートを取ること 授業中の私語、スマホは厳禁

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
2～3回実施予定の小テストの得点	70
受講態度	30

教科書			
教科書 1	なし		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業時に適宜、紹介する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
後期の 5 限目の授業であるから、日暮れも早く、寒さも加わる。気を引き締めて受講してほしい。
教員実務経験
俳人 第 2 6 回俳人協会新人賞 第 3 4 回詩歌文学館賞受賞

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	日本語の特徴（1）
2	日本語の特徴（2）
3	日本語の発音
4	日本語の文字体系（1）
5	日本語の文字体系（2）
6	漢字について
7	常識的な日本文学史（1）
8	常識的な日本文学史（2）
9	常識的な日本文学史（3）
10	幼児教育とことば（1）
11	幼児教育とことば（2）
12	わらべうたと童謡
13	伝統的な言語文化について（1）俳句の実作を通して
14	伝統的な言語文化について（2）俳句の実作を通して
15	まとめ

科目名	国語Ⅱ（書写を含む）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	石橋 卓				
クラス名					

授業目的と到達目標
1 国語科教育の基礎・基本となる内容を理解する。 2 小学校学習指導要領（平成29年告示）国語の内容を理解する。 3 書写指導（硬筆）の基礎・基本を習得する。
授業概要
対面授業 1 『小学校国語科教育法』阿部藤子・益地憲一（建帛社）を使って、国語科教育の基礎・基本について説明する。 2 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』を使って、小学校学習指導要領国語の内容を説明する。 3 小学校国語科書写用教科書『新しいしよしゃ二』平形精逸（東京書籍）を使って、書写指導（硬筆）の基礎・基本について説明する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
予習として、下記の「授業計画（各回予定）」の授業内容に示している教科書及び参考書の当該箇所を必ず読んでおくこと。 毎回、書写（硬筆）の実技を行うので、かきかたえんぴつ(2B)と消しゴムを用意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（予習など授業に取り組む態度、質問への解答など）	20
期末（筆記）試験	80

教科書			
教科書 1	小学校国語科教育法		
出版社名	建帛社	著者名	阿部藤子・益地憲一
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編		
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省
参考書名 2	新しいしよしゃ二（小学校国語科書写用 文部科学省検定済教科書）		
出版社名	東京書籍	著者名	平形精逸
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教科書及び参考書は3冊とも授業中に使用するので、必ず購入しておくこと。

教員実務経験

小学校教員（教諭、教頭、指導主事、校長）36年、大阪市教育センター教育指導員（若手教員指導担当）4年

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 オリエンテーション 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（以下『解説』と略す。）付録「別表 学年別漢字配当表」、「教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表」 『新しいしよしゃ二』（以下『しよしゃ』と略す。）しよしゃの学び方、1 楽しく書こう 文字を書くしせい、えんぴつの持ち方
2	【遠隔】 『教育法』第1章 国語科教育の意義と目指すもの 『解説』第1章 総説
3	【遠隔】 『教育法』第2章 授業と教師 『解説』第2章 国語科の目標と内容 第1節 国語科の目標、第2節 国語科の内容 1 内容の構成、2 [知識及び技能]の内容 『しよしゃ』2 かたかなの書き方 「止め」「はね」「はらい」と 「おれ」「まがり」
4	【遠隔】 『教育法』第3章 授業づくりの要件 『解説』第2章 第2節 3[思考力、判断力、表現力等]の内容 『しよしゃ』2 かたかなの書き方 文字くらべ
5	【遠隔】 『教育法』第4章 発達の段階に応じた指導 『解説』第3章 各学年の内容 第1節 第1学年及び第2学年の内容 1 [知識及び技能] 『しよしゃ』3 かん字の書き方 点画の名前
6	【遠隔】 『教育法』第5章 教材研究 『解説』第3章 第1節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『しよしゃ』れんらくちょうを書こう、3 かん字の書き方 ひつじゅんのきまり
7	【遠隔】 『教育法』第6章 授業デザイン 『解説』第3章 第1節 2 C 読むこと 『しよしゃ』3 かん字の書き方 画の長さ、「おれ」のむきと「はらい」のむき
8	【遠隔】 『教育法』第7章 話すこと・聞くことの学習指導 『解説』第3章 第2節 第3学年及び第4学年の内容 1 [知識及び技能] 『しよしゃ』かんさつしたことを書こう
9	【遠隔】 『教育法』第8章 書くことの学習指導 『解説』第3章 第2節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『しよしゃ』3 かん字の書き方 画のつき方と交わり方、文字の形
10	【遠隔】 『教育法』第9章 読むこと（文学）の学習指導 『解説』第3章 第2節 2 C 読むこと 『しよしゃ』書きぞめをしよう
11	【対面】もしくは【遠隔】 『教育法』第10章 読むこと（説明的文章）の学習指導 『解説』第3章 第3節 第5学年及び第6学年の内容 1 [知識及び技能] 『しよしゃ』かん字のなりたち、書いてあじわおう
12	【対面】もしくは【遠隔】 『教育法』第11章 読書指導、及び、第12章 国語科における（知識及び理解）の内容 『解説』第3章 第3節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『しよしゃ』3 かん字の書き方 文字の中心
13	【対面】もしくは【遠隔】

	『教育法』第13章 授業研究とリフレクション 『解説』第3章 第3節 2 C 読むこと 『しょしゃ』3 かん字の書き方 画のむきと、画と画の間
1 4	【対面】もしくは【遠隔】 『教育法』第14章 評価 『解説』第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画作成上の配慮事項 『しょしゃ』二年生のまとめ
1 5	【対面】もしくは【遠隔】 『教育法』第15章 これからの国語科教育に求められるもの 『解説』第4章 2 内容の取扱いについての配慮事項、3 教材についての配慮事項 『しょしゃ』「ありがとう」をつたえよう

科目名	国語科指導法（書写を含む）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	石橋 卓				
クラス名					

授業目的と到達目標
1 国語学力を形成する国語科授業のありかた、進め方を理解する。 2 書写指導（硬筆・毛筆）の基礎・基本を習得する。
授業概要
対面授業 1 『国語科授業の教科書（改訂版）』野口芳宏（さくら社）を使って、国語科授業のありかた・進め方を説明する。 2 小学校国語科用教科書『新しい国語 二下』『新しい国語 五』（東京書籍）を読み、学習指導案を作成し、学生が指導者となって模擬授業を行う。 3 小学校国語科書写用教科書『新しい書写 三』（東京書籍）を使って、書写指導（硬筆・毛筆）の基礎・基本について説明する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
予習として、下記の「授業計画（各回予定）」の授業内容に示している教科書及び参考書の当該箇所を必ず読んでおくこと。 第2回の授業では、書写指導（毛筆）の実技を行うので、書道用品を用意すること 第3回～第5回、第7回～第9回の授業では、書写指導（毛筆と硬筆）の実技を行うので、書道用品、かきかたえんぴつ（2B）と消しゴムを用意すること 第6回及び第10回～第12回の授業では、書写指導（硬筆）の実技を行うので、かきかたえんぴつ（2B）と消しゴムを用意すること 第13回～第15回の授業では、模擬授業を行う。先生役と児童役は、受講する学生全員が担当する。（ ）で示している人数は、その時間の先生役を担当する学生の人数である。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（出席状況、ノート・学習指導案・書写の提出状況、模擬授業の実施など）	40
期末（筆記）試験	60

教科書			
教科書 1	国語科授業の教科書（改訂版）		
出版社名	さくら社	著者名	野口芳宏
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	新しい国語 二下（小学校国語科用 文部科学省検定済教科書）		
出版社名	東京書籍	著者名	秋田喜代美
参考書名 2	新しい国語 五（小学校国語科用 文部科学省検定済教科書）		
出版社名	東京書籍	著者名	秋田喜代美
参考書名 3	新しい書写 三（小学校国語科書写用 文部科学省検定済教科書）		
出版社名	東京書籍	著者名	平形精逸

参考書名 4	
出版社名	著者名
参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
教科書及び参考書は4冊とも授業中に使用するので、必ず購入しておくこと。
教員実務経験
小学校教員（教諭、教頭、指導主事、校長）36年、大阪市教育センター教育指導員（若手教員指導担当）4年

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【遠隔】 オリエンテーション（講義の進め方、学習の仕方、準備物についての説明を聞く。） 国語科教育に関わる新聞記事や参考図書の紹介 ノートの学習のまとめを書く。
2	【遠隔】 『国語科授業の教科書（改訂版）』序 授業の存在意義、第一章 国語学力を形成する ― 学力形成が曖昧な国語科授業、二 国語学力とは、三 国語学力形成の原理 『新しい国語 二下』と『新しい国語 五』を使って、教科書の読み方や漢字についての説明を聞く。 『新しい書写 三』1 毛筆の学習を始めよう
3	【遠隔】 『国語科授業の教科書（改訂版）』第二章 授業の基本・授業者の心得 ― 全員参加を促す授業、二 子どもを集中させる技術、三 分かりやすい話し方、四 素材研究・教材研究 『新しい国語 五』（読む）大造じいさんとがん（物語） 『新しい書写 三』2 「横画」
4	【遠隔】 『国語科授業の教科書（改訂版）第二章 五 範読、第三章 授業の基礎技法 ― 発問、二 板書 『新しい国語 二下』（読む）かさこじぞう（お話） 『新しい書写 三』3 「たて画」と「点」
5	【遠隔】 『国語科授業の教科書（改訂版）』第三章 三 ノート指導、四 机間巡視 『新しい国語 五』（読む）和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる（説明文） 『新しい書写 三』4 「おれ」
6	【遠隔】 『国語科授業の教科書（改訂版）』第三章 五 指名、六 評価 『新しい国語 二下』（読む）ビーバーの大工事（せつ明文） 『新しい書写 三』5 筆順の決まり
7	【遠隔】 『国語科授業の教科書（改訂版）』第四章 教材別指導の基本 ― 文学作品（物語文）の鑑賞（前半） 『新しい国語 五』（読む）注文の多い料理店（物語） 『新しい書写 三』6 「はらい」
8	【遠隔】 『国語科授業の教科書（改訂版）』第四章 教材別指導の基本 ― 文学作品（物語文）の鑑賞（後半） 『新しい国語 二下』（読む）お手紙（お話） 『新しい書写 三』7 「曲がり」と「反り」
9	【遠隔】 『国語科授業の教科書（改訂版）』第四章 教材別指導の基本 二 説明文の読解 『新しい国語 五』（読む）動物たちが教えてくれる海の中のくらし（説明文） 『新しい書写 三』8 ひらがな
10	【遠隔】 『新しい国語 五』古文のえがく四季

	『新しい国語 五』（書く）反対の立場を考えて意見文を書こう 『新しい書写 三』9 文字の大きさと字間
1 1	【遠隔】 学習指導案の書き方の説明を聞き、学習指導案を作成する。 『新しい国語 二下』（書く）この人をしょうかいします 『新しい書写 三』書いて味わおう
1 2	【対面】 作成した学習指導案をもとに細案を作成し、次回からの模擬授業の説明を聞く。
1 3	【対面】 模擬授業を行う。（8名）
1 4	【対面】 模擬授業を行う。（8名）
1 5	【対面】 模擬授業を行う（7名）

科目名	算数	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	荒川 透				
クラス名					

授業目的と到達目標
小学校算数科のテーマは「数と計算」, 「量と測定」, 「図形」, 「数量関係」の4点である。本講義では, これらのテーマに加えて算数・数学の基盤となる「集合と論理」について学習する。本授業を通して, 「算数科」を指導するあたり, より効果的な授業が構築できるようになってもらいたい。さらに, 各テーマを通じて, 数学的思考法も併せて身に付けてもらいたいと考えている。
授業概要
本授業は遠隔授業で行います。 講義内容は必ずしも小学校課程の範囲にとどまらないが, それらは小学校で授業を構築する上で, 教師として当然知っておかなければならないものである。講義ではできるだけ例題や演習を挙げることにより, 理解を確実なものにしていきたいと考えている。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
随時演習問題等を提供するので, 授業内容の理解を確実なものにしてほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題および授業時の演習等	100

教科書			
教科書 1	資料プリント等を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	小学校・算数科で何を学ぶか：小学校学習指導要領・算数科の概要
2	数とは何か，数概念について理解する：数の種類と働き
3	数の表現方法（記数法）について理解する：古代の記数法と位取り記数法
4	四則演算の意味について考える
5	小学生がおかす四則演算の間違いについて考える
6	分数の四則演算について
7	図形の種類と分類：2次元，3次元図形，作図と作図のための道具
8	量と測定：数と量の関係，示量性と示強性
9	図形と計量：距離と角度，計量と計量のための道具
10	図形と計量：面積と体積，表面積
11	集合とは何か，またその演算について理解する
12	数学的思考法について考える：論理とその演算
13	比とは何か
14	比例と反比例について理解する
15	数量関係の関数概念への拡張：写像と関数

科目名	算数科指導法	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	芝本 哲也				
クラス名					

授業目的と到達目標
1. 小学校学習指導要領（算数）の目標を理解し、基礎的な指導内容と指導上の留意点を知ることができる。 2. 「数学的活動」の楽しさに関心・意欲を持ち、「数理的処理の良さ」に気づくことができる。 3. 問題解決学習の進め方を理解するとともに、模擬授業をもとに具体的な授業場面を想起し、授業設計を行う方法を身につける。 4. 授業場面を想起し、算数科学習指導案を作成し、模擬授業をプレゼンできる。
授業概要
・本講義は原則対面授業で実施しますが、コロナ禍拡大で大学方針の変更があればオンデマンド対応変更もあります。 ・小学校での教育を担う人材育成を念頭に置いて授業をすすめます。とりわけ、算数科の指導法を学び、実践できるような、基礎的な指導内容と指導上の留意点を網羅した講義を行います。 ・実際の授業を想起して学習指導案を作成したり、模擬授業に取り組みます、また学生同士の意見交換を行い、より良い授業とは、を考えるような取り組みもすすめます。 ・また、講義の中で「問題解決型の算数問題」にも取り組みます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・教員となるにふさわしい態度で受講してください。 ・一人ひとりの子どもが、いかに興味・関心・意欲を持ち算数学習に取り組み、「わかった」「できるようになった」、更に「算数の面白さや良さ」を学ぶか、そのために、指導者としてどう考え、実践するか、柔軟な思考を持つように。 ・各講義の終わりに小レポートの提出を課す。 ・最終講義でレポート提出による試験を行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題レポート(講義後レポート等)	30
講義・討論への積極的参加	20
プレゼン(模擬授業実践)	35
模擬授業指導案、最終レポート等	15

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編		
出版社名	日本文教出版	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	必要に応じ、その都度示す		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			

出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
大阪府立大学卒、大阪府公立学校教員・管理職、富田林市教育委員会指導主事・教育長を経て現職

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業計画のガイダンス（15回の流れ、評価を理解する。算数・数学教育を考える）
2	学習指導要領の動きと、算数科での目標を考え、授業にどう活かすかを考える。
3	「評価」について考え、授業にどう活かすかを考える。
4	「算数科を通して児童が学ぶこと」を学び、授業の組み立てにどう活かすかを考える。
5	「数と計算」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える（1）。
6	「数と計算」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える（2）。
7	「図形」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。
8	「量と変化」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。
9	「データ活用」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。
10	模擬授業を通して授業の流れを考える。
11	各自で授業の流れを考え、算数科学習指導案を作成する（1）。
12	各自で授業の流れを考え、算数科学習指導案の作成する（2）。
13	各自で作成した学習指導案をもとに、模擬授業をプレゼンし、意見交換を行う（1）。
14	各自で作成した学習指導案をもとに、模擬授業をプレゼンし、意見交換を行う（2）。
15	講義のまとめと、授業実践に向けた取り組みについて考える。最終レポート提出。

科目名	社会	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					

授業目的と到達目標
社会科は地理的内容、歴史的内容、公民的内容から成り立つ。しかし、小学校社会科はそれらを総合して社会を認識していくところに特質がある。 教えるにあたっては、幅広い知識と社会認識が必要となる。学生諸子には、社会事象、歴史、生活や文化に関心を持ち、自ら調べ、社会及び小学校社会科の内容に対する認識を深めてもらいたい。
授業概要
講義は対面授業で行うことを基本とする。ただし、第2講から第12講については遠隔授業で、第13講以降については、対面授業に切り替えます。 学生諸子が、日本の歴史、文化、宗教、現代社会の事象に関心を持つように、授業内配布資料、新聞記事や映像等を使って授業を展開したい。また、社会に対する認識を培うには、自ら社会事象に関心を持ち、それら社会事象に対して自らの考えを育み、綴ることも大切である。授業では、考えること、綴ること、意見を発表することを大切にしたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
筆記用具を持参すること。講義中には、板書を行います。ノートを用意してください。また、講義内では副教材や資料の配布を行うので、ファイル等を用意していただきたい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
大レポート	40
日常点の回答文（第 1 講から第9講の9回分）	20
小レポート（第10講から第15講までの6回分）	40

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領解説 社会編		
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	初等社会科教育研究		
出版社名	学芸図書株式会社	著者名	山口幸男・山本友和編著
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
小学校教諭・教育委員会指導主事

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	はじめに。講座のガイダンスと目標を明らかにする。
2	『二分法の世界観』というテーマで講義を行う。私たちは社会の一員であり、その構成員である。小学校社会科の目標の1つ目は、社会認識の育成である。学生諸子自身の社会認識の育成の一步として、社会の見方・考え方について講義する。
3	『新聞を読む』 新聞記事やニュース等、メディアで報じられる社会事象に関心を持ち、社会に対する知識を得、自らの認識を育むことの大切さを講義する。新聞の読み方、考察の仕方、文章化の方法について講義する。学生諸子には、自ら新聞記事を読み、その内容と自らの考えをまとめる小レポートを課題として課する。
4	『この国のかたち』について学ぶ。日本は、小さな島国である。土着の文化と、海外からやってきた異国の文化が融合され、そして独自の風習や文化が形づくられてきた。作家司馬遼太郎氏の作品を参照としながら、日本人がどのようにしてこの国の文化や風習を形づくってきたのかを講義する。また、これからの社会をどうつくっていくか考えるのかも、学生諸子と交えて考え合いたい。
5	シュブランガーの『郷土科の陶冶論』について講義する。シュブランガーは「人間というものは、大地と結ばれたこうした根元的なものを必要としている。」と述べ、そして、「ある人が故郷を持っていないと語られる場合、それは彼の人格には中心点がないといわれるのとほとんど同じ意味である。」と述べている。学生諸子自身の経験や考えを併せながら、シュブランガーの陶冶論について考察したい。それは、小学校の3年生ぐらいでの地域学習の授業づくりの在り方に繋がってくるからである。
6	『旅に出よう！』社会というのは、人々の生活と文化である。自らのまわりにある生活文化を見ることが大切であるが、知らない土地、知らない街に出かけ、未知の文化と触れ合うことも大切である。物事は、1つだけではなく、比較対照することで見えてくるものがたくさんある。またそこで、社会や自分の生き方に対する新たな見方・考え方や感じ方がうまれてくる。本や映像、人の話としても人々の生活や文化を知ることではできるが、自身の目で見、感じるものが大切である。将来、小学生に地理や歴史を教える時にも、実際に体験して得た知識や感じ方はとても有用になってくる。また、体験的な授業づくりにもつながってくるものとする。
7	『宗教と社会』について学ぶ。日本人は、外国人から見た時、無宗教のように見えるところがある。宗教は、人間の生活や生き方、社会の作り方に大きな影響を与えてきた。世界の宗教とともに、日本人の宗教についても考えてみる。作家・司馬遼太郎は、日本人には“無宗教の宗教がある”と語っている。そして、それは私たちの社会や文化・生活を作ってきた大きな要素であった。日本人と宗教について知り、考えることは、自国の社会認識をかたち作る上で欠かせないものと言える。
8	『歴史学習の在り方』について考える。小学校6年生の歴史学習は、人物学習が中心になっている。歴史的人物を学習することで、その時代の人々の生活や願い、社会の様子や課題について考え、学んでいくのである。現在のところ、副教材にも掲載されている『聖徳太子』を学習例として、歴史学習の在り方について考察する。
9	『人権』について学ぶ。人権という言葉が日本社会に入ってきたのは、幕末から明治にかけてであろう。民主主義という言葉もそうであるが、これらの言葉の意味、そして日本社会に入ってきたことの意義について、日本社会の歩みと照らし合わせ中で考える。また、現代日本や国際社会の中での人権課題・問題についても取り挙げて、人権に対する認識を深めたい。
10	小学校4年生、5年生では地域の産業や日本の産業について学習する。学習方法については様々にあるであろうが、この分野では、児童が自ら調べまとめる「調べ学習」が多く取り入れられている。学生諸子にも、自分で地域の産業を調べ、まとめることを課したい。対象は、産業だけに限らず、文化・生活・歴史的遺物に範囲を広げてよい。自身で調べ学習をしてみる。小学校社会科の目標の最も中心的なものは、「公民的資質の育成」である。今回の地域を調べる学習活動が、どのようにして児童の公民的資質の育成につながっていくのか。今講義を通じて考察したい。
11	『戦後日本の教育』の歩みを概観するとともに、知識理解を深めたい。特に社会科は、戦後に誕生した教科であり、戦前・戦中の教育の在り方の反省から出発した教科である。また、戦後日本の再生を期待して設置された教科でもある。その出発点にあたって、どのような経過で創設され、何を目標として内容が作られていったのか。そして、時代の変化とともに社会科の内容も変遷してきたことを学んでいく。社会科は、各教科と比べて、最も大きく時代とともにその内容が変遷してきた教科であるといってもいい。つまり、今後も変遷していく。どんな内容の社会科授業を創っていくのか？授業者一人ひとりも主体的に考え参画していくことが求められる教科であると言える。
12	ドイツの哲学者、マルクス・ガブリエル氏の『欲望の時代の哲学』を教材にして、現代社会についての考察を深めたい。資本主義が現代社会にどのような影響を与えているかの考察とともに、現代日本社会や日本人の在り方についての認識も深めていきたい。小学校社会科の目標は、「社会の中でよりよく生きていくため

	に、そして社会を一層発展させていくために、人間は他の人々や社会とどのようにかかわっていくのか」まで視野を広げることが大切であるとしている。学生諸子も、現代日本社会に対する認識を深めてもらいたい。
1 3	日本社会は、戦後の高度経済成長期を経て、大きく変容してきた。農村や山村等、国土の様子、生活の仕方、仕事（産業）の在り方も大きく変容した。私たちの現在とこれからの迎える社会を考える時、その変容の足跡を見、考えることは、小学校社会科を教えるものとして学習しておかなければならないことである。記録映像をもとに、日本人が積み重ねてきた生活の工夫や努力・願いについて知り、自分の考えを持ち、“歴史”を学ぶことと現代日本を理解することの関係について、その認識を深めていきたい。
1 4	学生発表を行う。第1講から、自身が住む地域や日本の文化・宗教・歴史・人権・産業等について学んできた。学生諸子が特に印象に残った事柄に対し、深く掘り下げて考察してもらいたい。グループに分かれて互いの意見を交換し、発表・交流を行いたい。交流を深めることで、互いの興味関心を広げるとともに、知見も広げたい。
1 5	まとめ

科目名	社会科指導法	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					

授業目的と到達目標
社会科の授業づくりは、難しい。1つは、取り扱う対象が、幅広い範囲にわたっていることである。2つは、社会に対する児童の知識や興味関心が、1人ひとり大きく違っていることである。3つは、社会事象を扱うにしろ、歴史事象にしろ、おおよそ正解というものがないことである。学生諸子には小学校社会科の目的を理解し、ある単元において社会科の授業づくりができるようになることを目標としたい。
授業概要
講義は対面授業で行うことを基本とする。ただし、第2講から第12講については遠隔授業で、第13講以降については、対面授業に切り替えます。 社会科の目標、社会科の内容について講義する。実際の授業記録をもとにして、社会科の授業づくりの在り方について研究協議する。学生諸子には、教科書や映像及び講義内配布資料等を参照し、指導案づくりと模擬授業に挑戦してもらいたい。その中で、自らの小学校社会科への興味関心や、教育に対する理解や授業創造への意欲も培われることと思う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
学習指導案づくりにおいては、単元設定が大切である。日ごろから、何をテーマとして自分は教材観を書くのか。教員をみざす者としてのアンテナを張って、考えておいてもらいたい。また、本講座では、板書をよく行う。学生諸子には筆記用具とともに、ノートも準備してもらいたい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
大レポート	40
日常の回答文（第1講から第9講までの9回分）	20
小レポート（第10講から第15講までの6回分）	40

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領解説 社会編		
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	初等社会科教育研究		
出版社名	学芸図書株式会社	著者名	山口幸男・山本友和編著
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
筆記用具及びノートを用意すること。講義時に資料を配布するので、ファイルを用意すること。
教員実務経験
小学校教諭・教育委員会指導主事

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	はじめに。講座のガイダンスと目標を明らかにする。
2	小学校社会科は、第二次世界大戦後に創設された教科である。戦前、戦中、戦後の歴史を概観しながら、なぜ社会科が創設されたのか、その目標と存立根拠について講義する。
3	小学校社会科の歴史の変遷について学ぶ。社会科は、昭和22（1947）年に創設された。ほぼ10年ごとに学習指導要領が改訂され、社会科の内容・時間数等は変化してきた。その変遷の歴史を学ぶ。社会科は、他の教科に比べても、最も著しく時代の変化をその内容や目標に取り入れられてきた教科である。よりよい社会を創っていかとうとする資質・態度を育成することを目標とする教科として、当然ではある。これまでの歴史を振り返るとともに、これからの社会科の在り方についても考察していきたい。
4	小学校社会科の内容について学習する。小学校社会科の内容は、大きく分けて、地域学習・地理的学習・歴史的学习・公民的学习及び「環境」「国際理解」の学習に分類されている。それぞれの内容及び目標を概括する。
5	『地域学習・郷土学習』の内容とその目標について講義する。併せて、地域学習の授業づくりについて事例をもとに研究協議する。
6	『地理的学習』の内容とその目標について講義する。併せて、地域学習の授業づくりについて事例をもとに研究協議する。学生諸子も、自身の知る、あるいは自身の住む地域について、地理的考察を深めてもらいたい。特に、日本は自然災害が多い国である。これまでの先人の防災の歩みと、現代における防災の在り方を調べ、地理と人々の生活との関係を学び合いたい。
7	授業研究を行う。4年生における社会科の授業記録を見ることで、社会科の授業についての認識を深めるとともに、学習指導案づくり・授業計画づくりの方法についての認識を深めたい。
8	6年生『戦争と平和』についての授業づくりについて研究協議する。私たちの先人は、第二次世界大戦という大きな犠牲を伴った戦争を経験してきた。戦争の記憶を引き継ぎ、平和と戦争の問題を考える授業づくりは、小・中学校問わず大切な課題である。立ち止まって現代の私たちの社会を考える動機作りにもなる。何を教材とし、どのように授業を構成するのか。具体例を挙げ、研究協議する。
9	6年生『歴史学習』の授業づくりについて研究協議する。小学校の歴史学習は、他の単元でも同様であろうが、子どもたちが興味関心を持つことが大切である。そのためには、歴史を学ぶこと、調べることが楽しくなることが大切である。『楽しく学ぶ歴史学習』作りについて、1つの学習指導案を事例として提示する中で、学生とともに研究協議を行う。
10	学習指導案づくり（1） 学習指導案の作成にあたっては、小学校における社会科教科書・文部科学省の学習指導要領を参照しながら、単元の設定や教材観の記述、本時の目標等を策定していかなければならない。教科書に載っている『古い道具と昔の生活』を参照しながら、目標の設定や教材観の書き方について講義する。また、授業の展開の在り方についても、研究協議を行う。
11	学習指導案づくり（2） 5年生における産業学習を例としながら、主に単元の設定の在り方と、教材観の書き方について講義する。
12	グループを設定する。グループごとに話し合いで、模擬授業の単元を設定し、学習指導案づくりを行う。まず大切なのは、単元設定である。単元を設定し、教材観、目標、本時の展開を考える。グループでの研究協議を大切に、指導案をまとめる。
13	学生による模擬授業（1） 第12講で作成した指導案を基にして、模擬授業を行う。研究・協議し、学生同士で指導案をより有効で創造的なものに作り上げていくことを大切にしたい。
14	学生による模擬授業（2） 第12講で作成した指導案を基にして、模擬授業を行う。研究・協議し、学生同士で指導案をより有効で創造的なものに作り上げていくことを大切にしたい。
15	まとめ

科目名	小学校教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	今西 康裕				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
教育課程とは何か、ということからまず出発し、教育課程は社会的に承認された「教育のプログラム」であることを強調した上で、学校教育で教育課程が有する役割と機能、意義等について理解を図る。また、このような教育課程を編成する際の基本原理となるもの、各学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を学ぶと共に、教科や領域、学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの重要性を理解する。
授業概要
遠隔授業 数多の社会的な事象のなかで、何を、どのように、どういう順番で教えていくかを明示したものが教育課程である。ただ、これは子どもたちの未来を規定しかねないものであるという重要性を有しながら、必ずしも万人に教育効果のあるものを編成することは至難の業であるという「難しさ」をも併せもつ。そうした教育課程の重要性と「難しさ」を中心に据え、その役割や編成過程、基本原理等を、歴史的推移も交えながら確認・考察していきたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
ただ漠然と授業時間をやり過ごすことなく、自らの小学校段階の教育体験と照らし合わせながら授業内容を確認し、教育や教育課程に対しての自分なりの考えや意見をもつようにしてほしい。また、そうした考えや意見を他者が理解できるよう、的確な表現を用いて提示するよう心掛け、実際に試行してみることで、自らの思考等をより明確・鮮明に自覚することにもつながるはずである。恥ずかしさや失敗を恐れることなく、自ら「考え」、「語る」ことを繰り返し行なってほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
受講態度・授業への参加姿勢・意欲、提出物の提出状況やその内容の充実度等で総合的に評価する。	100

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業中に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	

参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育課程とは何か
2	社会と教育課程
3	教育課程と学習指導要領
4	教育課程の歴史的変遷
5	教育課程の類型とその内容
6	教育課程編成の基本原理
7	教科・領域を横断した教育内容の選択・配列の方法
8	カリキュラム・マネジメント
9	学校段階と教育課程
10	教育課程の評価
11	教育課程の実践者としての教師
12	家庭・地域・学校の教育分担と教育課程
13	学校文化と潜在的カリキュラム
14	教育課程の今後に向けた課題
15	これまでの授業内容のふりかえりとまとめ

科目名	情報メディアの活用	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	松井 純子				
クラス名					

授業目的と到達目標
司書教諭に求められる情報メディア活用の基礎知識と実践的な技能を習得する。 (1)情報メディアの種類と特性について理解する。 (2)情報検索の知識と技能を習得する。 (3)パスファインダーの作成を通じて、情報活用能力の育成方法を具体的に把握する。
授業概要
対面授業 インターネットと情報環境の進展を背景に、学校図書館に対して多様なメディアの活用が要請されている。また、児童・生徒の情報活用能力の育成も、学校図書館の重要な役割である。 ここでは、情報メディアの種類と特性、情報検索の基礎などを述べた上で、多様なWebサイトやオンラインデータベースなどの検索演習を通じて、情報活用能力育成のための具体的方法を示す。さらにパスファインダーの作成を通じて、それらの具体化を図る。著作権や情報モラルに関わる問題も取り上げる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
司書教諭は、教師として児童・生徒を指導する立場であることは言うまでもない。したがって、教師としての意識・自覚を持って受講すること。また、各回の授業テーマについて、受け身でなく、自分自身で考えるようにしてほしい。 遅刻・欠席は厳禁。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
パスファインダーの作成・提出・プレゼンテーション	50
検索演習課題の提出	10
平常点（ミニレポート、授業への取り組み姿勢）	40

教科書			
教科書 1	使用しない。プリントを配布。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	情報を学習につなぐ：情報・メディアを活用する学び方の指導体系表解説		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	全国学校図書館協議会編
参考書名 2	「アロハ図書館タイム」はじめます。：鳥取・羽合小：司書教諭による学校図書館活用授業		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	北田明美著
参考書名 3	学校図書館を活用する学び方の指導：課題設定から発表まで（新しい教育をつくる司書教諭のしごと 1）		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	宅間紘一著
参考書名 4	パスファインダーを作ろう：情報を探す道しるべ		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会 著
参考書名 5			

出版社名	著者名
------	-----

参考URL
学校図書館の現状に関する調査 リーフレット「学校図書館を、もっと身近で、使いやすく」
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 学校図書館の現状：文部科学省の調査結果をもとに
2	教育の情報化と学校図書館
3	学習指導要領における学校図書館と司書教諭
4	情報活用能力の育成と学校図書館 ・情報活用能力とは ・情報活用能力の育成と情報リテラシーモデル：「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」「ビッグ6」
5	情報メディアの種類と特性(1) ・鳥取・羽合小「学び方指導の内容体系表」を参考に ・パッケージ系メディア（印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディア）とネットワーク系メディア（インターネット、オンラインデータベース）
6	情報メディアの種類と特性(2)情報メディアの収集・保存・提供とその特徴
7	学校図書館とコンピュータの活用
8	調べ学習とインターネットの活用(1) ・情報検索とインターネット ・検索エンジンの特性と検索機能 ・検索演習
9	調べ学習とインターネットの活用(2) ・各種検索サイトの活用 ・検索演習
10	調べ学習とインターネットの活用(3) ・オンラインデータベースの検索 ・検索演習
11	パスファインダーの作成(1) ・パスファインダーとは何か ・パスファインダーの事例
12	パスファインダーの作成(2) ・パスファインダー作成の実際（キーワードの選定、情報源の種類と選択、書誌記述の方法）
13	学校図書館と著作権(1)著作権法概説
14	学校図書館と著作権(2)学校教育と著作権
15	パスファインダーの作成(3) ・作成したパスファインダーについてのプレゼンテーション

科目名	人権教育論（初等）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。 2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。 3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。 4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。
授業概要
【遠隔授業】 国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングの視点を踏まえた参加型学習法を提示する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
レポート課題	50%
感想カード	50%

教科書			
教科書 1	『被差別マイノリティのいま 差別禁止制度を求める当事者の声』		
出版社名	解放出版社	著者名	(一社) 部落解放・人権研究所編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕 文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm 人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/attach/1370611.htm
特記事項
教員実務経験
日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	人権を国際的視点から考える 法務省ホームページYouTube『国際連合創設70周年記念全ての人の幸せを願って－国際的視点から考える人権－』視聴
2	国際人権教育 国際人権規約、国際人権条約、国際人権教育関連宣言や行動計画、実施の歴史的経緯、実施関連機関のメカニズム、実践事例等。
3	国内の人権教育 国内の法制度、基本計画、調査研究会議、指導法等の在り方に関する取りまとめ、地方自治体の取組、学校の実践事例等。
4	いじめ 「いじめ防止対策推進法」、いじめを認めない学級・学校経営、「自殺対策基本法」、安全に安心して学習できる環境作りの実践等。
5	子どもへの暴力 児童虐待の実態、「児童虐待防止法」、被害者の支援体制、児童虐待の予防対策、児童のエンパワメント実践事例等。
6	部落問題教育 部落問題教育（同和教育）の歴史的背景、実践事例、地域連携、国際人権教育との整合性、部落問題関連法、実態意識調査、最近の差別事象等。
7	インクルーシブ教育 歴史的背景、「障がい者権利条約」、国内の法整備、合理的配慮、支援教育の実践、介護等体験の意義等。
8	LGBTの視点を含めたジェンダー平等教育 ジェンダーの定義、LGBTについて、性的役割分業論、「女性差別撤廃条約」、国内法制度等。
9	多文化共生教育 世論調査、外国人住民調査、「ヘイトスピーチ解消法」、異文化交流、地域連携、自尊感情の育成、多様性の尊重、実践事例等。
10	ハンセン病問題 歴史と現在、3つの法律、01年「ハンセン病補償法」、09年「ハンセン病問題基本法」、08年に政府が提案し採択された国連決議等。
11	アイヌ民族 歴史、「アイヌ新法」、二風谷ダム裁判、先住民族の権利、偏見や差別、貧困、アイデンティティの問題等。
12	公害教育 歴史、裁判、法制度、対話、和解、公害を出さない街づくりの実践事例等。
13	開発教育 国際理解、世界経済、国際協力、「世界がもし100人の村だったら」ワーク等。
14	芸術教育 グローバル化時代を生きるために必要とされる、創造性、想像力、コミュニケーション能力、チームワーク等の社会的能力・スキルを育成するための教育理論、実践事例等。
15	アクティブラーニング 歴史的背景と手法の内容。

科目名	図画工作 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	金田 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
美術教育とは教育する教師自らが製作の喜びを熟知していることが肝要である。然りながら、自らの感性のみで達成できるものではなく、教育のみで行えるものではない。 まず種々な素材と対峙し、創造的思考の追及と創作技能の熟達を両輪に据え、各自の造形能力の向上と人間の本能的・本質的な「ものをつくる」を指導できる人材育成を目的とする。
授業概要
【対面授業】 他教科と大きく異なる図画工作は「ものをつくる」という行為が教育目的として存在する。この「ものをつくる」という行為は多岐多様な状況の連続である。教育現場で折々の状況に円滑に余裕を持って対応できる様、知識に依存することなく、平面表現・立体表現の素地となる諸要素を各人の「目」「手」「身体」に関わらせ体得し、創造の喜びを感じできるよう授業を進行する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・造形領域に関心を持つこと ・授業内容に積極的に関わりを持つこと ・得手、不得手を枠の外に置き、まず挑戦してみること ・「つくる」を大いに楽しむこと

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
制作作品の評価	40
各回の授業ノートの記入内容	30
受講態度及び受講姿勢	30

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 図画工作の概要と授業内容の概説。必要用具についての説明
2	色彩-I 無彩色 色彩の基礎知識／顔料の混色体験 直線と曲線で分割された画面を白～黒までの数色の無彩色で彩色し、構成する。
3	色彩-II 有彩色 色彩の基礎知識／顔料の混色体験 色彩-Iで分割した同様の画面を有彩色で彩色する。できうる限り混色により色を作り出すことに挑み、自分の色を見つけ出す。
4	色彩-III 色彩と感情 色彩の基礎知識／色彩心理への導入と理解 春／夏／秋／冬・甘／辛／苦／酸をテーマにカード状に切断したケント紙を塗りむらのないように彩色する。
5	色彩-III 色彩と感情 色彩の基礎知識／色彩心理への導入と理解 前回のカード状の色面をそれぞれ12等分し、1枚を自分の物として残し、残りを不特定の学生と交換し、各項目別に別紙に貼り付ける。
6	形態-I 観察と描写 観察、記憶への挑戦 モチーフを一定時間観察し、記憶のみを頼りにして描写。
7	形態-II 描写（無彩色） 鉛筆デッサンへ導入、描写力の向上 白黒グラビアの一部分を、10×10（cm）の正方形で切り抜き、鉛筆による描写で再現する。
8	形態-II 描写（無彩色） 鉛筆デッサンへ導入、描写力の向上 白黒グラビアの一部分を、10×10（cm）の正方形で切り抜き、鉛筆による描写で再現する。
9	形態-III 描写（有彩色） 色鉛筆での描写、色の表現、描法の向上 カラーグラビアの一部分を10×15（cm）の長方形で切り抜き、色鉛筆の塗り重ねにより再現する。
10	形態-III 描写（有彩色） 色鉛筆での描写、色の表現、描法の向上 カラーグラビアの一部分を10×15（cm）の長方形で切り抜き、色鉛筆の塗り重ねにより再現する。
11	素材-I 立体へのアプローチ イメージの具現化（平面上での挑戦） 「マイボックス」をテーマに各自自由に発想し、材料・工作方法などへのラフスケッチを作る。
12	素材-II 立体の構造性と素材の選択 「マイボックス」の制作
13	素材-III 立体の造形性と色彩 「マイボックス」の制作
14	素材-IV 立体の完成度と装飾性 「マイボックス」の制作
15	素材-V 合評と振り返り

科目名	図画工作Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	金田 恵美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
幼稚園・小学校の図画工作担当教育に必要な知識や技能の習得、及び指導法の基礎知識の習得。教材研究を深め、指導技術の向上、教師としての資質を養う。
授業概要
【対面授業】 図画工作の特性をふまえ、指導観、表現観、教材研究を基本とし、表現教材としての図画工作において重要な役割を持つ教材研究を重きに置いて授業を進める。 図画工作Ⅰでの学習をさらに発展された授業内容。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・まず造形領域に強い関心を持つ事。 ・授業に積極的に関わりを持つ事。 ・ジャンル別に提示されるテーマにおいて知識の拡充が計れる様、ノート作成に努力、精進する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
各回の授業ノートの記入内容	30
受講態度及び受講姿勢	30
制作作品の評価	40

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	図画工作科 授業の基礎基本		
出版社名	小学館	著者名	野切卓
参考書名2	ポイントと授業づくり 図画工作		
出版社名	東洋館出版社	著者名	藤江充、辻政博
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	図画の立場から教材研究、及び技術の向上 色彩と形態の関連性、図画工作Ⅰの授業内容のグレードアップ オノマトペの一つを各自選択決定し、具象形態を用いずに、B3ケント紙に表現する。
2	図画の立場から教材研究、及び技術の向上 色彩と形態の関連性、図画工作Ⅰの授業内容のグレードアップ オノマトペの一つを各自選択決定し、具象形態を用いずに、B3ケント紙に表現する。
3	他学科実習室の見学（美術学科）
4	工作の立場から教材研究、及び技術の向上 バターナイフもしくはスプーンのデザイン画の制作
5	工作の立場から教材研究、及び技術の向上 2×2×18（cm）のヒノキ棒から各自がデザインしたバターナイフもしくはスプーンを削り出す。
6	工作の立場から教材研究、及び技術の向上 2×2×18（cm）のヒノキ棒から各自がデザインしたバターナイフもしくはスプーンを削り出す。
7	デザインの立場から教材研究、及び技術の向上 オリジナルTシャツづくりのためのデザイン画の制作
8	デザインの立場から教材研究、及び技術の向上 テキスタイルメデュームで溶解した顔料を用いて各自のデザインされたTシャツの制作
9	デザインの立場から教材研究、及び技術の向上 テキスタイルメデュームで溶解した顔料を用いて各自のデザインされたTシャツの制作
10	工芸の立場から教材研究、及び技術の向上 陶土を用い、まず触覚からスタートする。粘土の可塑性の特徴と魅力を発見・認識を踏まえ、「形づくり」 難しさ楽しさを主眼において造形する。
11	工芸の立場から教材研究、及び技術の向上 陶土を用い、まず触覚からスタートする。粘土の可塑性の特徴と魅力を発見・認識を踏まえ、「形づくり」 難しさ楽しさを主眼において造形する。
12	他学科実習室の見学（工芸学科）
13	複合素材の立場から教材研究、及び技術の向上 図画／工作／工芸／デザインの各領域から習得・蓄積した知識と技能と表現方法を踏まえて、各自自由に作品を制作する。（平面・立体は問わない）
14	複合素材の立場から教材研究、及び技術の向上 図画／工作／工芸／デザインの各領域から習得・蓄積した知識と技能と表現方法を踏まえて、各自自由に作品を制作する。（平面・立体は問わない）
15	複合素材の立場から教材研究、及び技術の向上 図画／工作／工芸／デザインの各領域から習得・蓄積した知識と技能と表現方法を踏まえて、各自自由に作品を制作する。（平面・立体は問わない）

科目名	図画工作科指導法 I	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					

授業目的と到達目標
幼児・児童の造形活動を指導するにあたり、保育及び授業の設定の仕方や基礎的な学習理論を理解させ、学習指導案の作成をもとに具体的な授業場面を想定した授業設定の方法等を身につけさせる。
授業概要
(対面授業) 造形活動における指導計画の作成や授業設計の方法を実践的に学び、模擬授業を通して発問や授業展開の方法を考えていく。全員が作成した指導案を元に「授業」することを必須とする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
学習指導要領・図画工作解説編をよく読み、絵やものを作る中ではぐくまれる力について自分なりに考察を進めること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
指導案・レポート・模擬授業	40
テスト	60

教科書			
教科書 1	新学習指導要領にもとづく こどものアート		
出版社名	昭和堂	著者名	編著 車谷哲明・井関和代
教科書 2	小学校教育課程実践講座 図画工作		
出版社名	ぎょうせい出版	著者名	奥村高明
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領、小学校学習指導要領 図画工作編		
出版社名	文部科学省	著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

美術教育団体の長や教育委員会指導主事（図工・美術）の経験を活かし豊富な実践例を通して指導力の向上に努める。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	（対面） ガイダンス 「子どもと造形活動」① 新学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を知る。
2	（対面） 「子どもと造形活動」② 新学習指導要領に示された内容の全体構造を把握し、学年別の傾向を知る。（作品鑑賞を通して）
3	（対面） 「子どもと造形活動」③ 造形活動の意欲化と評価についての方法を学ぶ。（形成的評価とポートフォリオ）
4	（対面） 「子どもと造形活動」④ 保育所・幼稚園での造形活動と小学校低学年との関連から教科として育成すべき能力を明確にする。
5	（対面） 「子どもと造形活動」⑤ 図画工作科と他教科との関連について（教科横断的な取り組みや生活科、総合的な学習の時間との関連）
6	（対面） 「授業づくりのポイント」① 図画工作科の学習指導案の作成について（子どもの実態に合わせた題材の設定から計画作成まで）
7	（対面） 「授業づくりのポイント」② 図画工作科の学習指導案の作成について（導入の工夫と板書計画子どもを引き付ける題材名の検討や発問の工夫について）
8	（対面） 「授業づくりのポイント」③ 図画工作科の学習指導案の作成について（授業展開の工夫と鑑賞活動・振り返り活動の大切さ）
9	（対面） 図画工作科における情報機器の活用 図画工作科の学習指導案の作成について（授業内において効果的な機器の活用方法について実践例をもとに考える）
10	（対面） 模擬授業の準備 使用用具・素材の準備、場所の設定、配布物の用意等
11	（対面） 模擬授業の展開① 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
12	（対面） 模擬授業の展開② 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
13	（対面） 模擬授業の展開③ 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
14	（対面） 模擬授業の展開④ 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
15	（対面） 授業づくりのポイント 授業計画から実践・評価の中で大切にすべきことについて。評価テスト。

科目名	図画工作科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					

授業目的と到達目標
図画工作科の教科目標、育成すべき能力資質をさらに明確にし、授業づくりに必要な情報や技能を明確にしていく。また、具体的な授業場面を想定した授業設計を行なうことの出来る方法を身につける。
授業概要
(対面授業) 実技指導に関連させながら、指導のポイントや工夫点を明確にしていく。 また、鑑賞への取り組みについても作品を通して学ぶ機会を作ります。子どもの意欲を高めるための題材設定や材料・用具の工夫について討論しながら必要事項を身につけていきます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
実践的な指導の仕方について学んでいくので、自分なりの思いや考えがしっかり持てるよう日ごろから意識するように。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（授業態度・姿勢・意欲）	20
期末レポート	60
実技点（作品の評価）	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	平成 2 9 年度改訂 小学校教育課程実践講座 図画工作		
出版社名	ぎょうせい	著者名	奥村 高明
参考書名 2	新学習指導要領にもとづく 楽しいアート		
出版社名	昭和堂	著者名	井関和代・車谷哲明
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
美術団体の長や教育委員会指導主事（図工・美術）の経験を活かし具体的実践例をもとに指導力を育成する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	（対面） 図画工作科の内容と構成について。 新しい学習指導要領で大切にすべきこと。
2	（対面） 図画工作科の内容研究「造形あそび」① 造形あそびの特性解説と題材の分析（幼稚園～低学年）造形あそびの中で育つ力
3	（対面） 図画工作科の内容研究「造形あそび」② 造形あそびの特性解説と題材の分析（中学年～高学年）身近なあそびと造形活動
4	（対面） 図画工作科の内容研究「平面に表す」① パス・水絵の具を使った題材の分析、きっかけ題材への工夫
5	（対面） 図画工作科の内容研究「平面に表す」② パス・水絵の具を使った題材の分析、きっかけ題材への工夫
6	（対面） 図画工作科の内容研究「平面に表す」① 版画の指導計画の作成と実技指導（切り取り紙）
7	（対面） 図画工作科の内容研究「平面に表す」② 版画の指導計画の作成と実技指導（スチレン版とその応用）
8	（対面） 図画工作科の内容研究「立体に表す」① 素材研究（ダンボールを使った教材研究）
9	（対面） 図画工作科の内容研究「立体に表す」② 素材研究（ペットボトルを使った教材研究）
10	（対面） 授業場面を想定した授業設計① 電子黒板と電子教科書の活用方法について（実践例をもとに考える）
11	（対面） 授業場面を想定した授業設計② ipadを活用した授業設定の考察について
12	（対面） 図画工作科の評価について① 作品の評価について（記録と結果をもと）
13	（対面） 図画工作科の評価について② 授業内における評価活動と助言の仕方について
14	（対面） 模擬授業の実施（代表）① 学年、内容について事前に検討した計画に沿って代表者が模擬授業を行なう。
15	（対面） 模擬授業の実施（代表）② 学年、内容について事前に検討した計画に沿って代表者が模擬授業を行なう。期末テスト

科目名	生活	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					

授業目的と到達目標
生活科が創設されたいきさつから生活科の目標を理解する。創設時、生活科の新設理由として「生活や学習の基礎的能力や態度などの育成を重視する」ことや、「児童の心身の発達状況に即した学習活動の展開」が謳われている。本講座では、「生活科の授業づくりに向けて」の資質・能力の育成を目指す、子ども理解や、人間の『生活』への理解は欠かせない。子ども理解を深くするとともに、「豊かな生活を作る」とはどういうことなのかを考えていきたい。
授業概要
本講座の講義は、対面式授業と遠隔式授業を併用して行う。 人間の生活は、様々に変化してきた。日本の移り変わりだけを見ても、縄文から弥生へ、そして近世、近代へと大きく変化してきた。何がどう変化し、今にいたっているのかを知るとともに、小学校生活科においてどのような学習活動が必要とされているのか。自分だったらどのような学習活動を実施したいのか。考え、学び、研究協議する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
筆記用具およびノートを用意すること。講義内では資料を多数配布するので、ファイルも用意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
小レポート	20
期末テスト	60
日常の感想文	20

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領解説 生活編		
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	『子どもが育つみちすじ』服部祥子著		
出版社名	朱鷺書房	著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	はじめに 講座の目標説明とガイダンスを行う。
2	『チンパンジーと私たち』 約450万年ほど前に、私たちヒトは、樹上から地面に降りて、ヒトとしての種の道を歩んできたと言われる。霊長類研究者の松沢哲郎氏は「人間だけ見ても、人間のことは分かりません。共通祖先から分かれたチンパンジーとの比較で、人間が分かります。」と話している。様々な種が生まれ、滅んでいくなかでヒトが発展してきた道のりを概観し、私たちヒトの特性を考える。
3	『子どもが育つ道すじ』 小学校に入学するまでの子どもの成長について考える。服部祥子氏は、その著『子どもが育つ道すじ』において、「人間にはある程度普遍的に定まった、身体的・精神的・社会的発達の道筋があり、一人ひとりの子どもがその道筋をたどって成熟していく。」と書いている。人間の発達について、大ざっぱでよいから、しっかりした知識を持つておく必要がある。
4	『生活科と哲学』 学習指導要領における生活科の教科目標には、「身近な生活に関わる見方・考え方を生かし」や「生活を豊かにしていく」という記述が出てくる。豊かな生活や幸せな生活をめざして生きる資質や能力の育成が目標とするならば、そこには、生き方に対する考え方・哲学が必要となってくる。ある一人の女性の生活風景から、「生活を豊かにしていくとは」、「自立するとは」ということなのかを考察する。
5	『絵本を読む』 生活科指導法のある受講生の感想に「生活科で絵本を読むにあたって、今日の授業で話し合っていて、季節に関係あるものや、動物・植物がテーマの絵本を読むべきなのかなと思った。しかし、生活科は、子どもたちの生活を豊かにしていくためのもので、日常が少しでも楽しかったり嬉しかったり、友だちや家族を大切に思いやる気持ちを持つことが、充実した生活の根っこではないかと感じた。」という文章があった。生活科の中での読み聞かせについて考える。
6	『むかしの遊び』 子どもと遊びについて考える。「子どもにとっては、遊びが勉強である。」とは昔から言われてきた言葉である。現代の子ども課題を考えながら、遊びが子どもの生活の中にある意味・意義について考察する。
7	『モノを作る』 生活の中で、必要なものは自分でつくる。「モノを作る」という力や技術は、何でも買える時代ではあるが、これまでの日本の歴史を考えると、「モノを作ることが好きで、モノづくりに長じる」ことで生活を豊かにし、また、産業を支える力にもなってきた。生活科の授業において、体験を重視することとつながるところがある。生活科の中で「モノを作る」学習の意味・意義について、学生諸子も体験する中で考えてもらいたい。
8	『蚕を飼う』の実践記録から、生き物の飼育と生活科の授業づくりについて研究・協議する。 生活科の中で生き物を飼育することの目的、教育的意義について考察する。
9	『生活科の目標』 教科書としている「学習指導要領解説生活科編」から、生活科の目標について講義する。他の教科等との違いを明らかにするとともに、目標の中の「身近な人々、社会の特徴やよさに気付く」とはどういうことなのか。具体的な活動を想像しながら、その意味を考察する。
10	『子ども理解の方法』 子どもは多面性を持つ。そして、「今日のAくんは、昨日のAくんではない」。生活科は、そんな子どもたちを対象にして単元を設定し、学習活動を創造していく。目の前の児童の心身の発達状況に即した学習活動が設定されることが求められている。つまり、単元設定は「子ども理解」の上に立っているのである。講座では、その方法について講義する。
11	『季節と行事』 日本の伝統的な生活や季節の行事について考える。人間の生活の在り様は、先人が歩み築いてきた文化の在り様と密接に関連する。『季節と行事』の中には、取り巻く自然を見つめ、自然とどう付き合ってきたのか。地域のひとびととどのように生活を作ってきたのかが表れてる。生活科の中で、どのようにしてその季節感や生活感覚を伝えていくのか、研究・協議する。
12	『私が子どもにさせたい学習活動』 小学校生活科教科書や、学習指導要領を参照しながら、「私が子どもにさせたい学習活動」について考える。この時に、「子ども観」や「教材観」の作成を求める。どうしてその活動をしようとするのか？教育的価値は何か？実行していくためには何が必要となるのか？個人及びグループでの試行錯誤を深めたい。
13	『子ども達にさせたい体験活動』(1)の発表と交流。 グループごとに『私が子どもにさせたい体験活動』について発表する。発表後に意見交流を行い、よりよい

	体験活動の創造に向けての協議を行い、授業づくりに対する認識を深める。
1 4	『子ども達にさせたい体験活動』(2)の発表と交流。 グループごとに『私が子どもにさせたい体験活動』について発表する。発表後に意見交流を行い、よりよい体験活動の創造に向けての協議を行い、授業づくりに対する認識を深める。
1 5	まとめと期末テスト。

科目名	生活科指導法	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					

授業目的と到達目標
受講した学生の感想文に、「生活科の授業では、子どもたちが“楽しい”と思って活動することが大切で、その楽しさを共有し合うことで感性が豊かになる。生活科は、子ども自身の生活を豊かにしていくことが根本ではないかと感じる。」というのがあった。講座の目標は、生活科の豊かな授業づくりである。生活科における単元の設定ができ、学習指導案が作成できる力の獲得を目指す。
授業概要
本講座の講義は、対面式授業と遠隔式授業を併用して行う。 生活科の創設時を知るとともに、生活科に求められる教科目標についての理解を図る。様々な資料や実際の授業体験を通して、子どもたちが喜ぶ、そして自立につながる学習活動の創造に向けて、学習活動を行う。また、指導案の作成や模擬授業を課す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
生活科の授業づくりには、子ども理解と自由で豊かな教員の発想が大切になってくる。日常から、教育に携わることをめざすものとして、現代の子どもたちにどんな体験が必要と考えるか。自らの興味関心のアンテナを高めてもらいたい。 受講にあたっては、筆記用具・ノート・ファイル（配布資料をはさむ）が必要である。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
小レポート	20
日常の感想文	20
期末テスト	60

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領解説 生活編		
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	シリーズ授業⑥ 生活 実践の批評と創造		
出版社名	岩波書店	著者名	
参考書名 2	『子どもが育つ道すじ』		
出版社名	朱鷺書房	著者名	服部祥子
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
小学校教員・教育委員会指導主事

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	はじめに。講座ガイダンスと講座目標について。
2	『生活科の誕生』 生活科は、1992年4月から本格実施された。岩波書店刊の『シリーズ授業・生活科』においては、1989年の長野県の小学校での先行的な実践が紹介されている。本の副題に「実践の批評と創造」と記されているが、1年生の『紙を作る』授業が紹介され、各分野からの参加者が、授業批評と創造的な発言が記されている。本書を参考にしながら、生活科の授業づくりのあり方について研究協議する。
3	『生活科の授業における体験の意義』 『シリーズ・授業 生活科』（岩波書店刊）を参照しながら、生活科の授業を体験する。生活科の授業づくりにおいては、体験を通した学びが重視されている。学生諸子にも、『紙を作る』を体験してもらい、体験学習の意義への理解を深めたい。
4	『生活科の問題点』 副教材として示した『シリーズ授業・生活』（岩波書店）を読み、生活科の問題点について考察する。特に、「自分との関わり」とは何か。生活科授業における「教師の役割・支援」とは何かについて考えたい。
5	『生活科の目標』 教科書としている「小学校学習指導要領解説 生活編」から、生活科の目標について講義する。特に、生活科の示す“自立”とは何か。“生活を豊かにする”とは何か。指導要領をめくりながら、「生活科の目標」についての理解をはかりたい。
6	『生活科の授業づくりについて』 本講座の目標は、『生活科の授業づくり』ができる能力と態度の育成である。第13講、第14講では、学生諸子が作成した学習指導案をもとに、発表と交流、研究協議を予定している。授業づくりにおいて何が必要かを講義する。
7	『子ども理解』 子どもの精神発達課題と生活科の関係について学ぶ。子どもの精神発達には段階があり、それぞれにおいて乗り越えるべき課題があることを理解する。『子どもが育つみちすじ』（服部祥子著）を参照しながら、子どもが育つ道すじについての理解を深め、生活科の授業づくりについての考察に生かしていく。
8	『実践記録を見る』 東京・和光小学校の実践記録から、小学校2年生の授業づくりについて考える。生活科の授業づくりにはどんな要素や留意点が必要なのか。また、何を目標として設定していくのかを、実践事例を参照しながら理解を深めたい。また、授業を見る視点についても講義する。
9	『学習指導案を書く』 生活科の学習は、体験活動が多く取り入れられている。この時、学習が実りあるものになるためには、活動の目標や手段が授業者や児童によく理解されていることが重要である。なによりも、授業者がしっかりとした教材観を持っていることが求められる。講義内で活動例を提示し、その目標や教材観を研究協議する。また、授業案の書き方についても学生諸子の理解を深める。
10	『生活科の授業づくり』に向けて（1） 様々な実践的事例（伝承遊び・季節の行事・生き物の飼育等々）について、映像や実地体験等を通して、生活科の授業づくりにおいて大切にしなければならない要素について学習する。また、学習を通して、『単元設定』に向けての考察も深めていってほしい。
11	『生活科の授業づくり』に向けて（2） 様々な実践的事例（植物の栽培・遊びの創造・町たんけん等々）について、映像や実地体験等を通して、生活科の授業づくりにおいて大切にしなければならない要素について学習する。また、学習を通して、『単元設定』に向けての考察も深めていってほしい。
12	『私が子どもにしたい体験活動』案を作成する。 教員になった時に、自身が1, 2年生の児童にしてやりたい体験活動について、学習指導案づくりを行う。グループを構成し、学生間での研究協議を大切にしながら、模擬授業に向けて単元の設定、教材観の作成、学習活動計画を作成する。
13	『模擬授業』を行う。（1） 第12講で作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行う。発表された活動について研究協議し、より有効な、子どもたちが楽しんで行う活動にする方法について、意見を交流する。
14	『模擬授業』を行う。（2） 第12講で作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行う。発表された活動について研究協議し、より有効

	な、子どもたちが楽しんで行う活動にする方法について、意見を交流する。
1 5	まとめと期末テスト

科目名	生徒指導と進路指導論（初等）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	平良 伸哉				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
授業目的：児童が、社会の中で自分らしく生きることができる大人へと育つよう、教員としてどのような働きかけを行えば良いのか理解することを目的とする。 到達目標：学級担任として、日々の生徒指導やキャリア教育を推進するための基礎的な資質・能力を養うことを目標とする。
授業概要
対面授業。生徒指導、キャリア教育に係る諸課題について、講義、討論を通して理解を深める。小学校教諭、管理職、行政職の経験をもとに、知識だけでなく実践的な内容となるよう心掛けたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教育に関する諸問題について日頃から関心を持って情報を収集し、自分なりの考えをもったり、疑問に思ったりすることを整理しておくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
毎時間実施する振り返り	70
学期末テスト	30

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	生徒指導提要		
出版社名	教育図書	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

実務経験：小学校教諭、小学校管理職、教育相談室長、教育委員会事務局職員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	イントロダクション ブラック校則と呼ばれるものについてディスカッションし、校則は何のためにあるのかを再考する。
2	不登校 不登校問題の現状を知り、不登校児童・生徒への対応の仕方について考える。
3	いじめ・けんか・ふざけ いじめ問題の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
4	問題行動・非行等 問題行動の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
5	薬物乱用 薬物乱用の現状について知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
6	虐待・家庭内暴力 虐待や家庭内暴力の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
7	外国にルーツを持つ子どもたち 日本にいる外国ルーツの子どもたちの現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
8	教育相談 教育相談の意義と学校教育相談の特質について学ぶ。
9	携帯電話の取り扱いとネット問題 携帯電話やSNS上のトラブルの現状について知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
10	性的マイノリティーについて 性的マイノリティーの現状と学校で配慮すべき事柄を文部科学省の通知等をもとに学ぶ。
11	障がい・発達障がいと合理的配慮 すべての子どもたちが快適な学校生活を送ることができるようにするために、学校でできることを考える。
12	「カウンセリング」と「カウンセリングマインド」 学校教育相談を行うにあたって知っておくべき「カウンセリング」の基礎知識や技能について学ぶ。
13	キャリア教育と進路指導① キャリア教育と進路指導との関係を整理し、小学校におけるキャリア教育のあり方について考える。
14	懲戒と体罰 生徒指導に関する法制度について、懲戒と体罰を中心に学ぶ。
15	守秘義務と説明責任 生徒指導に関する法制度について、守秘義務と説明責任を中心に学ぶ。

科目名	総合的な学習の時間の指導法（初等）	年次		単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	前川 憲正				
クラス名					

授業目的と到達目標
本授業では、横断的・総合的な学習を通じて、探究的な見方・考え方を身に付けるという「総合的な学習の時間」の特質を理解するとともに、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、実社会・実生活から課題を見付け、探究する学びを実現するための、探究的な学習指導の在り方や指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識と技能を身に付ける。
授業概要
対面授業 授業形態はペアやグループによる小集団学習を中心にしていと考えている。その中で、学生自らが、主体的で対話的な学びを経験する中で、総合的な学習の時間の意義や探究的な学習の意味、各学校で目標や内容を定め、特色ある指導計画や単元計画を作成することの重要性を理解させたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・受講にあたり小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）を熟読する ・教員を志す者として授業規律を守り、主体的に学ぶ姿勢を大切にする

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業に取り組む姿勢	30
実践演習・レポートの内容	30
最終試験	40

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説（総合的な学習の時間編）		
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）		
出版社名	教育出版	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
小学校学習指導要領解説【総合的な学習の時間編】 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_013_1.pdf

今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300434.htm

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	「総合的な学習の時間の意義」 ・自らの経験を振り返るとともに、総合的な学習の時間の教育的意義をつかむ
2	「総合的な学習の時間の目標とその内容」 ・総合的な学習の時間の目標と育成をめざす資質・能力について理解する
3	「総合的な学習の時間の学習指導の在り方」 ・総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方や探究的な学習について理解する
4	「探究的な学習における主体的・対話的で深い学びは？」 ・探究的な見方・考え方や探究的な学習過程での「主体的・対話的で深い学び」について理解する
5	「全体計画と年間指導計画・単元計画の作成」 ・全体計画と年間指導計画の構成要素や単元計画作成の基本的な考え方・手順について理解する
6	「実際の学校における実践事例に学ぶ」 ・実際の学校における実践事例に学ぶとともに、これらを踏まえて学習指導案を作成する
7	「実際の授業の進め方と指導のポイント」 ・探究的な学習過程を踏まえて模擬授業を行い指導のポイントを理解する
8	「授業のまとめと振り返り（含 定期試験）」 ・授業全体を通じた振り返りを行うとともに理解度を探る

科目名	体育	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	佐藤 利一				
クラス名					

授業目的と到達目標
体育の目標、意義を理解し、社会の良きリーダーと成る為に、頭脳の理解だけでなく、実行でき得る能力（体力・精神力）と実践力が必要である。その為には、積極的な行動と使命感を身に付けなければならない。
授業概要
【対面授業】 理論編と実践編を組み合わせ、基本的な学習指導の進め方、指導上の工夫や留意点に触れ、体育授業実践に役立つものとなるように計画していく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
理解を深めようとする努力を精一杯すること。 欠席、遅刻をしないように心掛ける。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
定期試験	30
意見交換	20
意欲	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	適宜、教員作成のプリントなど		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	体育の目標とあり方
2	「体力」について
3	多様な動きをつくる運動
4	体ほぐしの運動
5	体力を高める運動
6	ボール運動
7	バレーン運動
8	陸上運動
9	フープ運動
10	ゴール型ゲーム
11	ネット型ゲーム
12	運動会のプログラム構成
13	スポーツ障害と応急手当
14	体育の社会的役割
15	まとめ

科目名	体育科指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	前川 憲正				
クラス名					

授業目的と到達目標
教科書のない小学校体育においては、時に「児童に何を教えたらいいの?」という学校現場の声が聞かれる。本授業では、生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現のために、児童の主体的・対話的で深い学びを通して、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合的に育成する体育科の実践的な指導力の向上を図りたいと考える。
授業概要
対面授業と遠隔授業の併用 授業形態は、可能な限り対面でペアやグループによる小集団学習を中心にしたいと考えている。その中で、幼児期及び学童期の心身の発達の特性を理解するとともに、近年の子どもたちの体力・運動能力の傾向を知り、体力・運動能力や運動に親しむ態度の育成と健康の保持増進を目標においた運動領域・保健領域の授業展開と、指導と一体化した計画的な評価の在り方について追究していきたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・受講にあたり小学校学習指導要領解説(体育編)を熟読する ・教員を志す者として授業規律を守り、主体的に学ぶ姿勢を大切にする ・模擬授業演習には、運動に適した服装、体育館シューズ等の準備をして参加する(事前に連絡する)

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業に取り組む姿勢	30
実践演習・レポートの内容	30
最終試験	40

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（体育編）		
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業の中で適宜指示する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
小学校学習指導要領解説【体育編】 , http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfil

e/2019/03/18/1387017_010.pdf

まるわかりハンドブック【文部科学省】 ,https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm

特記事項

教員実務経験

教員が小学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育指導員としての指導経験を活かし、実践的な指導法について学生に修得させる。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	対面授業 「体育学習の教育的意義は？」 ・自らの経験の振り返り、体育の教育的意義をつかむ
2	遠隔授業 「体育科の目標とその内容」 ・教育的意義の変遷を踏まえ、体育科の今日的課題と方向性を探る
3	遠隔授業 「子どもにとって楽しい体育とは？」 ・各運動領域における機能的特性と運動の楽しさについて理解する
4	対面授業（状況によって遠隔授業）「体育科における主体的・対話的で深い学びは？」 ・運動量の確保と対話的な学び、児童の主体性と教師の指導性について
5	対面授業（状況によって遠隔授業）「体づくり運動系領域・集団行動に関する指導」 ・教材研究と実際の指導・評価について理解する
6	対面授業（状況によって遠隔授業）「器械運動系・陸上運動系領域に関する指導」 ・教材研究と実際の指導・評価について理解する
7	対面授業（状況によって遠隔授業）「ボール運動系・表現運動系領域に関する指導」 ・教材研究と実際の指導・評価について理解する
8	対面授業（状況によって遠隔授業）「水泳運動系領域と保健領域に関する指導」 ・教材研究と実際の指導・評価について理解する
9	対面授業（状況によって遠隔授業）「年間指導計画と1単位時間の指導の関連①」（運動領域） ・年間指導計画、単元指導計画と1時間の指導展開例
10	対面授業 「実践演習①」（体づくり運動系） ・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
11	対面授業 「実践演習②」（ボール・表現運動系） ・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
12	対面授業 「実践演習③」（器械・陸上運動系） ・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
13	対面授業（状況によって遠隔授業）「年間指導計画と1単位時間の指導の関連②」（保健領域） ・年間指導計画・評価規準を踏まえた学習指導案の作成
14	対面授業（状況によって遠隔授業）「模擬授業演習」（保健領域） ・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
15	対面授業 「授業のまとめと振り返り（含 定期試験）」 ・授業全体を通じた振り返りと理解度を探る

科目名	道徳指導法（初等）	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35分の1の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。
授業概要
対面と遠隔の併用授業 「特別の教科 道徳」のあり方について理論的に検討すると共に、それに則した授業のあり方について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。授業者は、小学校教諭時代から実践的な経験を通して長らく「道徳教育」に関わってきた。公立・私立学校長として道徳教育を通したカリキュラムマネジメントにも携わってきた。それらを授業の中に効果的に反映する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験一回目	30
試験二回目	40
授業中の発言・参加状況	30

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	道徳教育の方法		
出版社名	放送大学教育振興会	著者名	堺 正之
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			

出版社名	著者名
------	-----

参考URL
特記事項
教員実務経験
小学校教員、管理職等として40年間、道徳教育・道徳科に関わって研究を進めてきた経験を生かして、道徳科の授業のあり方について、習得させる。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例示を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。
2	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。
3	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的なイメージを持つ。
5	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心（現代的課題）を生かして児童が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心（現代的課題）を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」① ・既成の教材数種から一種選択し、指導案づくりについて学習する。 ・教材研究を行う。
11	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」② ・選んだ教材をもとに、指導案づくりを体験する(子どもが主体的に取り組める授業展開とはどのようなものなのか話し合い、工夫する)。

1 2	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」③ ・選んだ教材をもとに指導案づくりを体験する(主題名(内容項目)、主題設定の理由、指導観、本時のねらい、指導の流れ、評価等について検討する)。
1 3	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」④ ・各自作成した指導案を活用して授業のあり方について、同教材を使用する履修者どうしが集まり、検討し合う。
1 4	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」⑤ ・異なる教材を使用する履修者どうしで、模擬授業を行う。
1 5	対面授業 模擬授業を振り返り、授業のあり方について検討すると共に、これまでの学習全体を振り返る。

科目名	特別活動指導法（初等）	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	前川 憲正				
クラス名					

授業目的と到達目標
学校における望ましい集団活動や体験活動を通して、児童の人間形成を図ることを特質とする特別活動は、小学校教育全体にわたる基本的な活動と言っても過言ではない。その特別活動の教育的意義や指導原理を深く理解するとともに、実践事例や模擬授業等を通して「子どもの望ましい人間関係づくりへの支援こそが、すべての学習に共通する根本理念である」ということを体得させたいと考える。
授業概要
対面授業 授業の形態は、学校現場での喫緊の課題に密着した「グループワーク」や「ケーススタディ」を中心として考えている。「いじめ」「不登校」「学級崩壊」など今日的な教育課題や新学習指導要領の方向性も視野に入れ、「学校・学級生活の場で生きて働き、子どもの成長に寄与できる特別活動の指導のあり方」を講師と学生との主体的・対話的な授業を通して追究していきたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・受講にあたり小学校学習指導要領解説（特別活動編）を熟読する ・教員を志す者として授業規律を守り、主体的に学ぶ姿勢を大切にする

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業に取り組む姿勢	30
実践演習・レポートの内容	30
最終試験	40

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（特別活動編）		
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業の中で適宜指示する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
小学校学習指導要領解説【特別活動編】https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afile/2019/03/13/1387017_014.pdf

特別活動指導資料【小学校編】 https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_h301220-01.pdf
特記事項
教員実務経験
教員が小学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育指導員としての指導経験を活かし、実践的な指導法について学生に修得させる。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	「特別活動の教育的意義」 ・オリエンテーリング（自らの経験の振り返り、特別活動の概略をつかむ）
2	「特別活動の歴史と今日的課題」 ・戦前・戦後の歴史的経緯を踏まえ、現在の特別活動の意義を問い直す
3	「特別活動の改訂のポイント」 ・特別活動の改訂のポイントとその内容について理解する
4	「学級活動に関すること①」 ・児童の日々の成長を支え学級の規範や文化を生み出す学級活動
5	「学級活動に関すること②」 ・現在及び将来の自分を見つめ、なりたい自分に向けて努力する学級活動
6	「児童会活動に関すること」 ・全校児童や異年齢集団の児童会で学校生活を楽しく豊かにする児童会活動
7	「クラブ活動に関すること」 ・同好の異年齢集団で学校生活を楽しく豊かにするクラブ活動
8	「学校行事に関すること」 ・学校生活を豊かにし、身に付けた力を総合的に発揮する学校行事
9	「特別活動と他の教育活動との関連①」 ・特別活動と各教科、生徒指導との関連とちがいについて理解する
10	「特別活動と他の教育活動との関連②」 ・特別活動と道徳、総合的な学習との関連とちがいについて理解する
11	「特別活動の実践演習①」 ・学級活動の年間活動計画と指導案例をもとに各自で指導案を作成する
12	「特別活動の実践演習②」 ・作成した指導案に従ってグループごとに模擬学級会を行う（議題①）
13	「特別活動の実践演習③」 ・作成した指導案に従ってグループごとに模擬学級会を行う（議題②）
14	「特別活動の実践演習④」 ・児童の意欲を高める学級開き・学級目標づくりを実践的手法で理解する
15	「授業のまとめと振り返り（含 定期試験）」 ・授業全体を通じた振り返りと理解度を探る

科目名	特別支援教育理論（初等）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	田中 裕美子				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
通常級に在籍する発達障害をはじめとするさまざまな障害の背景や特性、乳幼児期から学童・青年期にわたる障害様相を発達の視点から理解し、特別支援教育の基礎知識を学ぶ。障害により、または診断はされていないが、特別支援を必要とするあるいは気になる子どもの教育的ニーズに気づけるようになる。それぞれの教育的ニーズに対する教師の役割や適切な合理的配慮・支援、保護者や関係機関との連携などを考えることができる
授業概要
授業は原則、遠隔で行います。 発達障害を中心に様々な障害の特性や、集団内および個別の支援教育の制度や基本理念について概説する。診断されていないが教育的ニーズのある子どもを含め、通常級の事例などを通して各児の特性、発達、長所・短所を捉え、実際にはどのような困り感を抱えているかについて述べる。また、学習上または生活上の困難に応じた合理的配慮や対応・支援の方法をどのようにしたものがあるかなどについても解説する
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎回、授業内容に関する資料を配布する。視聴覚教材を用いた講義を参考に各自で配布された資料を完成させ、ファイルに整理し、授業に持参する。授業の最後にリアクションペーパー（キーセンテンス：最も常用後思ったことを文にする。質問がある場合は記述する）を仕上げて提出する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
テストおよび定期試験	60
提出物	30
授業への取り組み	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	はじめての特別支援教育-教職を目指す大学生のために 改訂版		
出版社名	有斐閣アルマ	著者名	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一 ・納富恵子（編）
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			

出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	障害とは：impairment, disability, handicapの3つのレベル
2	特別支援教育とは：特別支援教育の制度や基本理念、教員に求められる役割や技能
3	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解と支援 1：基本的特性
4	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解と支援 2：発達に伴って認められる特性
5	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解と支援 3：アスペルガー症候群
6	注意欠如・多動性障害（ADHD）の理解と指導・支援 1：三つの特性
7	注意欠如・多動性障害（ADHD）の理解と指導・支援 2：特性の理解に基づく支援法
8	中間総括：特別支援教育や発達障害の基本知識の復習
9	子どものアセスメント：支援につながる子どもの評価
10	子どもの言語の問題とは：コミュニケーション言語と学習言語
11	（限局性）学習障害（SLD）の理解と指導・支援：音声言語（聞く・話す）や書字言語（読む・書く）の問題
12	知的障害の理解と指導・支援：情報処理理論からみた評価と支援法
13	身体障害・聴覚障害・視覚障害の理解と指導・支援
14	保護者、専門機関、地域との連携および進学や就労の支援
15	全体総括・授業内定期試験

科目名	保育内容（環境）	年次	2	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	赤松 綾子				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
幼児は自分の周りにある物や人や自然などの環境を自身の遊びの中に取り入れ、遊ぶ中で幼児期に体験しなければならないことを体得する。環境との出会わせ方や幼児にふさわしい環境について学習していきたい。
授業概要
対面授業 幼児にとり、どのような環境が大切なのか、遊びの実際から、環境のあり方について習得させていきたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
学生自身が身の周りの自然に関心を持ち、季節の変化などに気付けるようになりましょう。五感を磨きましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験により評価します	80
平常点及びレポート提出	20

教科書			
教科書 1	保育内容「環境」新版		
出版社名	北小路書房	著者名	小田豊 他
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
担当者は、幼稚園教員免許（1種）長年の現場経験あり

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	明治時代からの保育環境の歴史 ・園舎環境の変容と自然環境 ・園外保育の始り ・園庭の遊具設置の広がり
2	子どもにとっての「環境」 ・日常と保育で使われる環境の意味の違い ・子どもにとっての身近な環境とは
3	実際の保育環境を作ってみよう ・夏野菜を植え、世話をする
4	好奇心・探究心を育てる①—子どもの気持ち ・子どもの心の動きを見て取る ・子どもと響きあい伝えあうために
5	好奇心・探究心を育てる② —保育者の働きかけ ・子どもの「なぜだろう」に寄り添うことについて ・事例から、学びの土台や幼児理解について考える ・応答的環境について
6	思考力の芽生えと環境との関わりからの学び ・そのものの理解 ・仕組みや法則性の理解 ・予測や見通し ・数量の体験
7	屋内、屋外の魅力ある環境をデザインする ・保育環境をデザインする ・子どもの生活を豊かにする環境を考える
8	園具・遊具・素材の環境デザインの基本 ・物的環境とは ・それぞれの目的や機能を理解する ・独楽というツールで遊んでみよう
9	自分を取り巻く社会の文化にふれる ・社会の文化や伝統行事にふれる
10	自然事象への関心を高めるためには ・四季の変化を保育に取り入れる
11	身近な環境・植物に親しむ ・育てた野菜の収穫をする ・見通しを持って植物環境を作る—実践事例より考える—
12	命を感じる環境とは ・具体的な事例より
13	自然や身近な動植物とかかわる保育と領域「環境」の内容 ・保育者の役割と見識について
14	教育要領から、保育内容「環境」について ・ねらいと内容について ・子どもの育ち（10の姿）
15	保育内容「環境」についてのまとめ 試験を実施

科目名	保育内容（環境）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	赤松 綾子				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
幼児は自分の周りにある物や人や自然などの環境を自身の遊びの中に取り入れ、遊ぶ中で幼児期に体験しなければならないことを体得する。環境との出会わせ方や幼児にふさわしい環境について学習していきたい。
授業概要
対面授業 幼児にとり、どのような環境が大切なのか、遊びの実際から、環境のあり方について習得させていきたい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
学生自身が身の周りの自然に関心を持ち、季節の変化などに気付けるようになりましょう。五感を磨きましょ。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験により評価します	80
平常点及びレポート提出	20

教科書			
教科書 1	保育内容「環境」新版		
出版社名	北小路書房	著者名	小田豊 他
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
担当者は、幼稚園教員免許（1種）長年の現場経験あり

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	明治時代からの保育環境の歴史 ・園舎環境の変容と自然環境 ・園外保育の始り ・園庭の遊具設置の広がり
2	子どもにとっての「環境」 ・日常と保育で使われる環境の意味の違い ・子どもにとっての身近な環境とは
3	実際の保育環境を作ってみよう ・夏野菜を植え、世話をする
4	好奇心・探究心を育てる①—子どもの気持ち ・子どもの心の動きを見て取る ・子どもと響きあい伝えあうために
5	好奇心・探究心を育てる② —保育者の働きかけ ・子どもの「なぜだろう」に寄り添うことについて ・事例から、学びの土台や幼児理解について考える ・応答的環境について
6	思考力の芽生えと環境との関わりからの学び ・そのものの理解 ・仕組みや法則性の理解 ・予測や見通し ・数量の体験
7	屋内、屋外の魅力ある環境をデザインする ・保育環境をデザインする ・子どもの生活を豊かにする環境を考える
8	園具・遊具・素材の環境デザインの基本 ・物的環境とは ・それぞれの目的や機能を理解する ・独楽というツールで遊んでみよう
9	自分を取り巻く社会の文化にふれる ・社会の文化や伝統行事にふれる
10	自然事象への関心を高めるためには ・四季の変化を保育に取り入れる
11	身近な環境・植物に親しむ ・育てた野菜の収穫をする ・見通しを持って植物環境を作る—実践事例より考える—
12	命を感じる環境とは ・具体的な事例より
13	自然や身近な動植物とかかわる保育と領域「環境」の内容 ・保育者の役割と見識について
14	教育要領から、保育内容「環境」について ・ねらいと内容について ・子どもの育ち（10の姿）
15	保育内容「環境」についてのまとめ 試験を実施

科目名	保育内容（健康）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	寺田 恭子				
クラス名					

授業目的と到達目標
幼稚園教育要領に基づき、子どもの健康な心と体を育て、「子ども自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指す。運動あそびや食育、生活リズム、睡眠、基本的な生活習慣など、子どもの健康課題をふまえ、具体的な保育場面の中で、どのように子ども自身が健康で安全な生活を営む力を形成していくのか、指導方法を学習し、身に付ける。
授業概要
対面授業 幼児の現在の生活における健康課題を学生たちの問題意識から焦点化し、子どものより健康で安全な生活を目指すために、「子どもの育てほしい姿」を明確化する。具体的な保育場面、指導場面、実践事例を提示しながら、子どもの心身の発達と道すじ、育みたい資質・能力を理解する。模擬保育を通して、保育者としての視点を身に付ける。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
保育内容「健康」は、自分自身の健康と深くかかわっている。自分の生活を振り返るところからスタートをし、新聞やテレビ、webなどでの情報に関心をもつこと、また子どもたちが保育の中で「健康」課題を獲得するためにどのように関わったらいのか、について考察を深めて欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業の参加度	20
発表・提出物	40
授業内試験	40

教科書			
教科書 1	『新訂事例で学ぶ保育内容〈領域〉健康』		
出版社名	明文書林	著者名	無藤隆監修、倉持清美編著
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領（最新版）文部科学省		
出版社名		著者名	
参考書名 2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
高校家庭科教員 保育所、認定こども園、幼稚園における親支援講師、阿倍野区食育アドバイザー

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	保育内容「健康」領域のねらいと内容 ・本授業のガイダンス ・幼稚園教育要領が示す「健康」について、学生たちの問題意識に問いかけながら、ねらいと内容を理解する。
2	子どもの健康な育ちを支えるために ① ・子どもの健康課題とその背景について テキストや視聴覚教材を用いて理解する。
3	子どもの健康な育ちを支えるために ② ・子どもの健康課題とその背景について テキストや視聴覚教材、グループワークを通して明らかにし、「子どもの育って欲しい姿」を理解する。
4	子どもの運動能力の発達 ・人の身体発達・運動発達の方向性と臨界期を理解した上で、保育場面の遊びについて理解を深める。
5	子どもの心の発達 ・子どもの心理発達を理解した上で、家庭での親子関係の重要性と保育者の役割を理解する。（視聴覚教材活用）
6	子どもが育つ生活習慣の形成 ① ・生活リズム、睡眠、基本的な生活習慣の獲得と発達について理解する。
7	子どもが育つ生活習慣の形成 ② ・情報機器を活用したクラスだよりを作ろう（保護者に向けて）
8	子どもの食 ① ・子どもの食の問題と背景について理解する。 ・食の重要性を理解し、共食と脳の発達の関係を知る。
9	子どもの食 ② ・領域健康の中から食育を取り上げ、保育場面に活かす ・絵本、かるた、調理、エプロンシアター、などどのような教材を用いて、子どもの食における興味や関心、健康意識を高められるだろうか。模擬保育の構想を深める。
10	子どもの食 ③ ・幼稚園教育要領領域健康に留意しながら、食育を教材とした指導案を作成する。。
11	子どもの食 ④ ・グループの中でお互いに発表し、より良い指導案になるように意見を交換する。
12	子どもの食 ⑤ ・模擬保育の発表
13	子どもの食 ⑥ ・模擬保育の発表とふり返り
14	安全教育と安全意識 ・子どもの事故と怪我の実態と課題 ・安全意識を遊びの中で育む ・計画的な指導によって安全意識を高める
15	・家庭との連携

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・本授業のまとめ・授業内試験 |
|--|---|

科目名	保育内容（健康）	年次	2	単位数	1
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	寺田 恭子				
クラス名					

授業目的と到達目標
幼稚園教育要領に基づき、子どもの健康な心と体を育て、「子ども自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指す。運動あそびや食育、生活リズム、睡眠、基本的な生活習慣など、子どもの健康課題をふまえ、具体的な保育場面の中で、どのように子ども自身が健康で安全な生活を営む力を形成していくのか、指導方法を学習し、身に付ける。
授業概要
対面授業 幼児の現在の生活における健康課題を学生たちの問題意識から焦点化し、子どものより健康で安全な生活を目指すために、「子どもの育てほしい姿」を明確化する。具体的な保育場面、指導場面、実践事例を提示しながら、子どもの心身の発達と道すじ、育みたい資質・能力を理解する。模擬保育を通して、保育者としての視点を身に付ける。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
保育内容「健康」は、自分自身の健康と深くかかわっている。自分の生活を振り返るところからスタートをし、新聞やテレビ、webなどでの情報に関心をもつこと、また子どもたちが保育の中で「健康」課題を獲得するためにどのように関わったらいのか、について考察を深めて欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業の参加度	20
発表・提出物	40
授業内試験	40

教科書			
教科書 1	『新訂事例で学ぶ保育内容〈領域〉健康』		
出版社名	明文書林	著者名	無藤隆監修、倉持清美編著
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領（最新版）文部科学省		
出版社名		著者名	
参考書名 2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版） 内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
高校家庭科教員 保育所、認定こども園、幼稚園における親支援講師、阿倍野区食育アドバイザー

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	保育内容「健康」領域のねらいと内容 ・本授業のガイダンス ・幼稚園教育要領が示す「健康」について、学生たちの問題意識に問いかけながら、ねらいと内容を理解する。
2	子どもの健康な育ちを支えるために ① ・子どもの健康課題とその背景について テキストや視聴覚教材を用いて理解する。
3	子どもの健康な育ちを支えるために ② ・子どもの健康課題とその背景について テキストや視聴覚教材、グループワークを通して明らかにし、「子どもの育って欲しい姿」を理解する。
4	子どもの運動能力の発達 ・人の身体発達・運動発達の方向性と臨界期を理解した上で、保育場面の遊びについて理解を深める。
5	子どもの心の発達 ・子どもの心理発達を理解した上で、家庭での親子関係の重要性と保育者の役割を理解する。（視聴覚教材活用）
6	子どもが育つ生活習慣の形成 ① ・生活リズム、睡眠、基本的な生活習慣の獲得と発達について理解する。
7	子どもが育つ生活習慣の形成 ② ・情報機器を活用したクラスだよりを作ろう（保護者に向けて）
8	子どもの食 ① ・子どもの食の問題と背景について理解する。 ・食の重要性を理解し、共食と脳の発達の関係を知る。
9	子どもの食 ② ・領域健康の中から食育を取り上げ、保育場面に活かす ・絵本、かるた、調理、エプロンシアター、などどのような教材を用いて、子どもの食における興味や関心、健康意識を高められるだろうか。模擬保育の構想を深める。
10	子どもの食 ③ ・幼稚園教育要領領域健康に留意しながら、食育を教材とした指導案を作成する。。
11	子どもの食 ④ ・グループの中でお互いに発表し、より良い指導案になるように意見を交換する。
12	子どもの食 ⑤ ・模擬保育の発表
13	子どもの食 ⑥ ・模擬保育の発表とふり返り
14	安全教育と安全意識 ・子どもの事故と怪我の実態と課題 ・安全意識を遊びの中で育む ・計画的な指導によって安全意識を高める
15	・家庭との連携

	・ 本授業のまとめ ・ 授業内試験
--	---

科目名	保育内容（言葉）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	田中 裕美子				
クラス名	【18以前生対象】				

授業目的と到達目標
ことばは子どもの発達を示すバロメーターである。そこで、ことばの発達を概観しつつ、その発達に関連する認知や社会性の発達について理解する。事例を通して言語やコミュニケーションの発達を評価する方法、それらの発達をうながすための基本的姿勢やかかわり方の実際を学ぶ。遊びや絵本・紙芝居などの文化財を使ってことばの発達を支援する方法を考案し、教材を作成して発表を通してねらいや方法を言語化できる。
授業概要
授業は原則、遠隔で行います。 年齢に沿ってことばの発達の現象を丁寧に見ながら、ことばを話す前から子どもの行動が示す発達の意味を概説する。発達年齢に応じたさまざまな事例を通して適切な大人のかかわりやことばかけはどのようなものかを検討する。さらに、発達年齢に適切なことばを育む遊びやことばの発達を促す教材を考案し、ねらいや方法を明確にした上で、グループで発表する
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
視聴覚教材を用いた講義を参考に、各自で毎回配布される資料を完成させる。配布資料はファイルに整理し、毎回持参すること。グループ発表用の配布プリントは授業前に印刷し、発表時に配布する。毎回、授業の最後にキーセンテンスを作成し、提出する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業への取り組み	10
発表・提出物	50
テストおよび定期試験	40

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	保育内容 ことば [第3版] (新時代の保育双書)		
出版社名	みらい	著者名	赤羽根 有里子, 鈴木 穂波 (編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	子どもはどのようにことばを身につけていくか
2	0～1歳児のことばと保育者のかかわり
3	1～2歳児のことばと保育者のかかわり
4	3～4歳児のことばと保育者のかかわり
5	4～5歳児のことばと保育者のかかわり
6	遊び・活動を通してことばを育むとは
7	中間総括：発達年齢に沿ったことばの発達と保育者のかかわりのポイント
8	ことばを育む遊び・活動を考える：グループ発表
9	幼児教育の基本と領域「言葉」
10	4～5歳児のことばと保育者のかかわり-2
11	ことばの遅れと言語発達障害の理解と支援
12	学習言語の発達とつまずき
13	ことばを育てる文化財とは
14	文化財を使ったことばの発達支援法を考える：グループ発表
15	全体総括・授業内定期試

科目名	保育内容（言葉）	年次	2	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	田中 裕美子				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
ことばは子どもの発達を示すバロメーターである。そこで、ことばの発達を概観しつつ、その発達に関連する認知や社会性の発達について理解する。事例を通して言語やコミュニケーションの発達を評価する方法、それらの発達をうながすための基本的姿勢やかかわり 方の実際を学ぶ。遊びや絵本・紙芝居などの文化財を使ってことばの発達を支援する方法を考案し、教材を作成して発表を通してねらいや方法を言語化できる。
授業概要
授業は原則、遠隔で行います。 年齢に沿ってことばの発達の現象を丁寧に見ながら、ことばを話す前から子どもの行動が示す発達の意味を概説する。発達年齢に応じたさまざまな事例を通して適切な大人のかかわりやことばかけはどのようなものかを検討する。さらに、発達年齢に適切なことばを育む遊びやことばの発達を促す教材を考案し、ねらいや方法を明確にした上で、グループで発表する
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
視聴覚教材を用いた講義を参考に、各自で毎回配布される資料を完成させる。配布資料はファイルに整理し、毎回持参すること。グループ発表用の配布プリントは授業前に印刷し、発表時に配布する。毎回、授業の最後にキーセンテンスを作成し、提出する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
テストおよび定期試験	40
発表・提出物	50
授業への取り組み	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	保育内容 ことば [第3版] (新時代の保育双書)		
出版社名	みらい	著者名	赤羽根 有里子, 鈴木 穂波 (編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	子どもはどのようにことばを身につけていくか
2	0～1歳児のことばと保育者のかかわり
3	1～2歳児のことばと保育者のかかわり
4	3～4歳児のことばと保育者のかかわり
5	4～5歳児のことばと保育者のかかわり
6	遊び・活動を通してことばを育むとは
7	中間総括：発達年齢に沿ったことばの発達と保育者のかかわりのポイント
8	ことばを育む遊び・活動を考える：グループ発表
9	幼児教育の基本と領域「言葉」
10	4～5歳児のことばと保育者のかかわり-2
11	ことばの遅れと言語発達障害の理解と支援
12	学習言語の発達とつまずき
13	ことばを育てる文化財とは
14	文化財を使ったことばの発達支援法を考える：グループ発表
15	全体総括・授業内定期試

科目名	保育内容（人間関係）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 幸代				
クラス名	【18以前生対象】				

授業目的と到達目標
領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特長や現代社会の状況などを踏まえて、子どもの人と関わる力を育むための保育内容、援助、指導方法などを実践的に理解する。
授業概要
対面授業 幼稚園教育要領等に記された領域「人間関係」のねらいや内容について、幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深める。事例や視聴覚教材などを使用し、具体的に幼児理解を深めながら、環境構成や援助方法を学ぶ。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
広く幼児教育を取りまく動向や社会状況に関心をもち、グループでの討議の機会には積極的に発言し、主体的に授業に取り組ましましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験	50
受講態度・平常のレポートや提出物等	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領解説		
出版社名	出) フレーベル館	著者名	著) 文部科学省
参考書名 2	保育内容 人間関係		
出版社名	出) 光生館	著者名	編著) 岩立京子・西坂小百合
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
幼稚園教諭・園長の経験を活かし、幼稚園での具体例・実践例等を通して、幼児の人間関係について学びを深める

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 授業の目標・内容を知り、受講に関しての目的意識を明確にする 領域「人間関係」に求められること -人間関係をめぐる現代的課題と社会的背景-
2	領域「人間関係」のねらいと内容について
3	0歳児～3歳未満児の育ちと人との関わり -人との信頼関係を基盤に-
4	3歳児の育ちと人との関わり -自立心の芽生えと人間関係-
5	4歳児の育ちと人間関係 -友達と生活や遊びをつくる 仲間との出会いと関わり-
6	5歳児の育ちと人との関わり -友達と生活や遊びをつくる 遊びの中で育つ協同性-
7	人と関わる力を育む保育 遊びと生活の中で育つ人との関わり
8	子どもの育ちをつなぐ -幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 小学校との接続-
9	けんかやいざこざ、トラブルを通して成長する子ども
10	道徳性・規範意識の芽生え
11	保護者への理解と支援
12	気になる子どもへの支援①
13	気になる子どもへの支援②
14	子育ての支援・地域とのかかわり
15	まとめと授業内試験

科目名	保育内容（人間関係）	年次	2	単位数	1
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 幸代				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特長や現代社会の状況などを踏まえて、子どもの人と関わる力を育むための保育内容、援助、指導方法などを実践的に理解する。
授業概要
対面授業 幼稚園教育要領等に記された領域「人間関係」のねらいや内容について、幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深める。事例や視聴覚教材などを使用し、具体的に幼児理解を深めながら、環境構成や援助方法を学ぶ。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
広く幼児教育を取りまく動向や社会状況に関心をもち、グループでの討議の機会には積極的に発言し、主体的に授業に取り組ましましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験	50
受講態度・平常のレポートや提出物等	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領解説		
出版社名	出) フレーベル館	著者名	著) 文部科学省
参考書名 2	保育内容 人間関係		
出版社名	出) 光生館	著者名	編著) 岩立京子・西坂小百合
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
幼稚園教諭・園長の経験を活かし、幼稚園での具体例・実践例等を通して、幼児の人間関係について学びを深める

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 授業の目標・内容を知り、受講に関しての目的意識を明確にする 領域「人間関係」に求められること -人間関係をめぐる現代的課題と社会的背景-
2	領域「人間関係」のねらいと内容について
3	0歳児～3歳未満児の育ちと人との関わり -人との信頼関係を基盤に-
4	3歳児の育ちと人との関わり -自立心の芽生えと人間関係-
5	4歳児の育ちと人間関係 -友達と生活や遊びをつくる 仲間との出会いと関わり-
6	5歳児の育ちと人との関わり -友達と生活や遊びをつくる 遊びの中で育つ協同性-
7	人と関わる力を育む保育 遊びと生活の中で育つ人との関わり
8	子どもの育ちをつなぐ -幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 小学校との接続-
9	けんかやいざこざ、トラブルを通して成長する子ども
10	道徳性・規範意識の芽生え
11	保護者への理解と支援
12	気になる子どもへの支援①
13	気になる子どもへの支援②
14	子育ての支援・地域とのかかわり
15	まとめと授業内試験

科目名	保育内容（表現）	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	畑中 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
領域「表現」に視点を当て、保育現場で必要とされる様々な表現活動を体験し、考察することによって、実践的指導を身につける。
授業概要
遠隔授業 就学前教育では、幼児が集団生活を送る中でのびのびと自分の思いを表現する力が大切である。その為には幼児期の発達の特性を理解し、幼児期に相応しい教育内容と方法を知ることが必要である。身体表現、音楽表現、造形表現などの表現活動について知識を深めるとともに教育者としての豊かな感性をもち、幼児に寄り添った援助が出来るようにする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
実際に歌ったり、踊ったり、描いたり、作ったりなど体を動かします。活動しやすい服装と靴で受講すること。「表現」なので、授業内でしっかりと自分を表現しましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
受講態度と発表・提出物	40％
試験	60％

教科書			
教科書 1	幼稚園教育要領解説		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
幼稚園教諭・園長経験を活かして、実際に現場で行われている表現活動も展開していきます。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	保育の基本と「表現」について ・環境を通して行う教育 ・表現と感性
2	領域「表現」のねらいと内容について① ・感じたことや考えたことを表現する ・保育者の役割
3	領域「表現」のねらいと内容について② ・表現できる環境づくり
4	表現を育む基本姿勢 ・子どもの表現をどう受け止めるのか
5	表現を育む基本姿勢 ・身体による表現について
6	表現を育む基本姿勢 ・音楽による表現について
7	表現を育む基本姿勢 ・造形による表現について
8	表現活動の援助・指導について ・身体による表現
9	表現活動の援助・指導について ・音楽による表現
10	表現活動の援助・指導について ・造形による表現
11	保育現場での実践内容① ・事例から「表現」を考える
12	保育現場での実践内容② ・事例から「表現」を考える
13	教材研究と表現を引き出す環境構成
14	保育者の専門性 ・保育者自身の表現力と感性
15	まとめと試験

科目名	保育内容（表現）	年次	2	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	畑中 久子				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
領域「表現」に視点を当て、保育現場で必要とされる様々な表現活動を体験し、考察することによって、実践的指導を身につける。
授業概要
遠隔授業 就学前教育では、幼児が集団生活を送る中でのびのびと自分の思いを表現する力が大切である。その為には幼児期の発達の特性を理解し、幼児期に相応しい教育内容と方法を知ることが必要である。身体表現、音楽表現、造形表現などの表現活動について知識を深めるとともに教育者としての豊かな感性をもち、幼児に寄り添った援助が出来るようにする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
実際に歌ったり、踊ったり、描いたり、作ったりなど体を動かします。活動しやすい服装と靴で受講すること。「表現」なので、授業内でしっかりと自分を表現しましょう。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題提出物	100%

教科書			
教科書 1	幼稚園教育要領解説		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
幼稚園教諭・園長経験を活かして、実際に現場で行われている表現活動も展開していきます。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	保育の基本と「表現」について ・環境を通して行う教育 ・表現と感性
2	領域「表現」のねらいと内容について① ・感じたことや考えたことを表現する ・保育者の役割
3	領域「表現」のねらいと内容について② ・表現できる環境づくり
4	表現を育む基本姿勢 ・子どもの表現をどう受け止めるのか
5	表現を育む基本姿勢 ・身体による表現について
6	表現を育む基本姿勢 ・音楽による表現について
7	表現を育む基本姿勢 ・造形による表現について
8	表現活動の援助・指導について ・身体による表現
9	表現活動の援助・指導について ・音楽による表現
10	表現活動の援助・指導について ・造形による表現
11	保育現場での実践内容① ・事例から「表現」を考える
12	保育現場での実践内容② ・事例から「表現」を考える
13	教材研究と表現を引き出す環境構成
14	保育者の専門性 ・保育者自身の表現力と感性
15	まとめと試験

科目名	保育内容指導法総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	赤松 綾子				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
幼稚園教育要領には「ねらい」「内容」が5領域で示されている。しかし、「子どもの遊び」は総合的に展開されるので、領域の枠を超えて見ていかなければならないことを学習する。
授業概要
対面授業 幼稚園での保育内容の歴史と変遷を知り、保育内容事例の紹介をしながら、総合的な「子どもの遊び」を体験し理解してもらう。身体を通して感じ取る感覚を養うと共に、子どもの遊びについて、指導案の作成をし、援助の在り方、環境構成などの基本的な理解を深める一助とする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
保育内容指導法総論は幼稚園全般を知るよい機会です。担当者は、幼稚園現場の事情に通じています。積極的に質問をして、自分のものにしてください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験により評価	80
教材作成への取り組み	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	幼稚園教育要領		
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
担当者は、幼稚園教員免許（１種）長年の現場経験あり

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	幼稚園教育の草創期と、フレーベル主義の保育方法について
2	保育方法とその変遷 ・明治時代から現代に至るまでの保育内容と指導法についての概要
3	保育者とは ・保育者の一日について
4	幼児理解と保育内容 ・「子どもを知ること」と「子どもを分かること」の違いについて
5	行事と保育 ・行事の意味について ・保育指導案を書いてみよう
6	秋の自然と子ども ・ドングリの遊びを考えよう ・遊びのねらいと子どもの学び
7	豊かな生活（保育）の展開① ・ドングリの遊びにふさわしいお話を考えてみよう
8	豊かな生活（保育）の展開② ・素話、ペープサート、パネルシアターなどの教材作成
9	豊かな生活（保育）の展開③ ・お話を発表しよう
10	記録ビデオを通して、保育者の動きについて考える ・保育者の意図 ・子どもを育てる言葉かけとは
11	幼児の造形活動について ・作品展の実際と意味 ・子どもの絵の見方 ・子どもの造形活動を通して育つもの
12	園外保育の実際 ・事例を通して事前指導から当日までの活動
13	生活に必要な文字や数字に触れる ・かるたづくりをする
14	1月の遊びを考えよう ・凧を作ってみよう ・凧あげをしてみよう
15	まとめ 試験の実施

科目名	幼児理解の理論と方法（幼児）	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	児玉 陽子				
クラス名					

授業目的と到達目標
幼児を理解するということは、幼児の発達についての多面的な理解が不可欠である。その上で、子どもの視座を持つということ、子ども自らの育ちを支援するための理解の視点と技法を身につけることを目的とする。さらに、幼児のつまずき・保護者の心情に対する理解と対応についても学ぶ。 また、保育者としての基礎的態度、環境としての自らの存在についても理解し考察を深める。
授業概要
遠隔授業 幼児理解のための発達についての基本的な知識について、講義と体験的学習で身につける。また、幼児を理解するための観察や記録などの具体的な方法を学び、事例を通して考える。さらに、幼児の育ちを支援するための絵本や遊び、また、幼児のつまずきや保護者への実際の対応などについて研究し、実践的な学びの機会とする。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
予習...自らの子どもを振り返っておくこと、子どもの絵本・遊びについて、資料収集等しておくこと 復習...授業回のテーマについて振り返るとともに、子どもの見えている世界について考察を深めること

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
試験に代わるまとめの課題	60
授業内課題への取り組み①	20
授業内課題への取り組み②	20

教科書			
教科書 1	使用しない		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	子ども理解と援助		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	高嶋景子・砂上史子編著
参考書名 2	幼児理解と保育援助		
出版社名	建帛社	著者名	田代和美編著
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
臨床心理士・公認心理師 精神科クリニック勤務・幼稚園子育て相談員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	幼児理解とは何か・「幼児」の見えている世界 幼児を理解するための視座・幼児理解の意義について
2	幼児の発達理解①理論の理解と保育者としての視点 乳児期から幼児期へ
3	幼児の発達理解②理論の理解と保育者としての視点 幼児期前半
4	幼児の発達理解③理論の理解と保育者としての視点 幼児期後半
5	発達のつまずき 偏りと支援・個と集団
6	幼児理解のための方法と技術① 幼児の発達や学びを促し、そこから幼児への理解を深めるための具体的な方法・技術について学ぶ
7	幼児理解のための方法と技術② 幼児の発達や学びを促し、そこから幼児への理解を深めるための具体的な方法・技術についての実践的研究
8	観察と記録 幼児を「みる」まなざしとは？記録の方法と意義・カンファレンスの在り方
9	環境としての保育者① 「環境」として存在するとはどういうことか
10	環境としての保育者② 子どもと保育者との相互作用
11	幼児支援の実践① 発達や学びを支援する・そのつまずきに気づき対応するなどさまざまな事例を検討し、理解と対応の在り方について考察する
12	幼児支援の実践② 子どもとの関係構築、保育者のあり方・対応可能性について検討する
13	幼児支援の実践③ 子どもへの対応と保護者との連携について考察する
14	幼児理解についての総合的考察 幼児理解のための基礎的態度和は何か・幼児理解のための方法について、場面・状況に応じた観察・記録を検討するとともに、個と集団についての理解と保育目標、教師の在り方について考察する
15	試験に代わるまとめの課題 幼児を理解する際に求められる知識と対応・援助の技術について学び・修得したことについて確認する

科目名	理科	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	平良 伸哉				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業目的：小学校理科のねらいや授業展開、指導の在り方を具体的な単元に即して理解することを目的とする。 到達目標：児童が興味関心をもち、主体的に活動できるような理科の指導法の基礎を身に付け、小学校理科の学習指導案を作成するための基礎的な知識を身に付ける。
授業概要
遠隔授業。小学校理科の4つの内容区分（エネルギー、粒子、生命、地球）から、代表的な単元をとりあげ、そのねらいや展開の方法を具体的に解説する。講義形式に偏ることなく、可能な限り、受講生どうしの対話を取り入れる。教員が小学校教諭としての経験を活かし、実際の授業を行うにあたっての留意点や指導案の書き方を具体的に解説する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
身の回りの自然事象について、日頃から関心をもって情報を収集し、自分なりに疑問をもったり調べたりしておくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
毎時間果たす課題についてのレポート	100

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編		
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
実務経験：小学校教諭、小学校管理職、教育相談室長、教育委員会事務局職員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	理科教育と科学（"科学的とはどういうことか"を理解するとともに、理科教育の目標、素材と教材について学ぶ）
2	理科のトリビア（自然科学に親しみをもつとともに、これまで自分が受けてきた理科教育を振り返る）
3	物の溶け方Ⅰ（教材について理解を深めるとともに、“問題解決”“問題意識の醸成”について学ぶ）
4	物の溶け方Ⅱ（教材について理解を深めるとともに、「粒子」を柱とする領域の見方・考え方について学ぶ）
5	金属、水、空気と温度Ⅰ（教材について理解を深めるとともに、“問題解決の実行の場面”について学ぶ）
6	金属、水、空気と温度Ⅱ（教材について理解を深めるとともに、“振り返り”と“問題解決の連続発展”・安全な理科実験について学ぶ）
7	月と太陽（教材について理解を深めるとともに、「地球」を柱とする領域にける見方・考え方について学ぶ）
8	月と星（教材について理解を深めるとともに、“対話のさせ方”について学ぶ）
9	土地のつくりと変化（教材について理解を深めるとともに、“発問”“板書”について学ぶ）
10	植物の発芽・成長・結実（教材について理解を深めるとともに、「生命」を柱とする領域における見方・考え方に条件統一などの“考え方”について学ぶ）
11	電気の通り道（教材について理解を深めるとともに、“ノート指導”について学ぶ）
12	水溶液の性質（教材について理解を深めるとともに、“アクティブ・ラーニング”と“教師の出番”について学ぶ）
13	振り子の運動（教材について理解を深めるとともに、「エネルギー」を柱とする領域における見方・考え方を学ぶ）
14	生物と環境（教材について理解を深めるとともに、ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方について学ぶ）
15	磁石の性質（磁石が使われている身近な物について探求する）

科目名	理科指導法	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	平良 伸哉				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業目的：小学校理科の学習指導要領の目標や内容を理解し、学習指導案を作成するための基本的な考え方や能力を身に付ける。 到達目標：小学校理科の学習指導案を書くことができ、作成した指導案に基づいて授業を行うことができる。
授業概要
対面授業。「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする4つの領域から、各グループ毎に3つの単元を選び、学習指導案の作成と模擬授業を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
学習指導案の作成や模擬授業など、グループでの活動が多くなるので、毎回出席するように心掛けること。また、特定の人物に作業が集中しないよう、役割分担をしっかりと決めておくこと。なお、模擬授業は全員最低1回は行うこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
学習指導案・模擬授業に対する相互評価の結果	30
毎時間実施する振り返りシート	70

教科書			
教科書 1	小学校学習指導要領解説（理科編）		
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

実務経験：小学校教諭、小学校管理職、教育相談室長、教育委員会事務局職員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 小学校理科の目標や内容を概観し、以後の学習の進め方について理解する。なお、以後の学習活動のため、4～5人のグループを6班編成する。
2	指導案作成・模擬授業の単元を、3～6年生の単元から各グループ毎に3つ選定し、今後の作業のタイムスケジュールや役割分担、連絡方法などについて打ち合わせを行う。なお、3つの単元は、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする4つの領域から、重複しないように選定すること。
3	学習指導案づくりⅠ－1 「エネルギー」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
4	学習指導案づくりⅠ－2 「エネルギー」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
5	模擬授業Ⅰ－1 「エネルギー」を柱とする単元について①～③班が10分間の模擬授業を行い、学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
6	模擬授業Ⅰ－2 「エネルギー」を柱とする単元について④～⑥班が10分間の模擬授業を行い、学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
7	学習指導案づくりⅡ－1 「粒子」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
8	学習指導案づくりⅡ－2 「粒子」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
9	模擬授業Ⅱ－1 「粒子」を柱とする単元について①～③班が10分間の模擬授業を行い、学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
10	模擬授業Ⅱ－2 「粒子」を柱とする単元について④～⑥班が10分間の模擬授業を行い、学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
11	学習指導案づくりⅢ－1 「生命」もしくは「地球」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
12	学習指導案づくりⅢ－2 「生命」もしくは「地球」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
13	模擬授業Ⅲ－1 「生命」もしくは「地球」を柱とする単元について①～③班が10分間の模擬授業を行い、学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
14	模擬授業Ⅲ－2 「生命」もしくは「地球」を柱とする単元について④～⑥班が10分間の模擬授業を行い、学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
15	まとめ 理科の授業の問題解決の過程、例えば「問題をもつ場」「問題解決の実行の場」「対話の組織」などの各場面において、発問や板書、評価と支援など、特に留意すべき点を整理する。